



第44回東京都理学療法学会のご案内

第44回東京都理学療法学会
大会長 寄本恵輔

演題募集開始しました

演題登録修正期間

2025年2月12日から

4月25日23時59分まで

演題登録の概要は本誌P2からP4ならびに大会ホームページをご参照ください。

<https://x.gd/weuFY>

また登録にあたり倫理的配慮には十分にご注意いただきますようお願い申し上げます。

<https://x.gd/GXFWj>

第44回大会チラシは許諾期間終了のため削除させていただきました

東京都理学療法士協会広報局

233号の目次

第44回東京都理学療法学会準備委員会	1～4	スポーツ局人材育成部	43
第8回日本理学療法管理学会学術大会	5	スポーツ局子どもの健康・安全部	44～49
第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会	6～8	渉外局医療報酬部	50～57
地域活性局	9～34	災害対策委員会	58～61
広報局外宣部	35	福祉保健局障害福祉部	62
エスカレーターマナーアップ推進委員会	36	倫理委員会	63
福祉保健局健康増部	37	学術局学術誌編集部	64～65
スポーツ局スポーツ支援・推進部	38～42	編集後記	65

第44回東京都理学療法学会大会のご案内

演題登録・修正要綱

演題登録期間

2025年2月12日(水)～4月25日(金) 23時59分

応募資格

本学会に関する理学療法に寄与する内容であれば、どなたでも演題登録できます。筆頭演者として登録できる演題は1演題のみです。他学会や雑誌等に登録中あるいは発表済みの演題を登録することはできません。

演題登録は無料ですが、学会参加費は資格により異なります。内容をご確認のうえ、登録をお願いいたします。

会員：2,500円

非会員（日本理学療法士協会会員）：5,000円

非会員（日本理学療法士協会会員外）：30,000円

他職種（医療・福祉専門職）：15,000円

一般：15,000円

発表形式・演題分類・発表時間

○**発表形式** □演発表（日本語） ポスター発表（日本語）

○**演題分類** 一般演題とオーガナイズドセッション演題

一般演題は、「基礎」、「神経」、「運動器」、「内部障害」、「生活環境支援」、「物理療法」、「教育管理」、「サイエンス」、「実技」の9カテゴリとなります。

本学会では理学療法はアート&サイエンスの両面を有することを鑑みた新たな試みとして「サイエンス」と「実技」のカテゴリを創設しました。

▶**サイエンス**：

仮説検証、因果推論、研究手法、結果の解釈について深くディスカッションします。

座長は研究実績を有する教員および専門理学療法士を想定しています。

▶**実技**：

ポスター発表形式でお願い致します。ポスターブース+トリートメントベッドを準備いたします。

明確なエビデンスは乏しいけれども、議論すべきコンセプトや手技についての考察や症例報告を募集します。

他に物品が必要な場合は採択前に学術局にご相談頂きますようお願いいたします。

座長は専門・認定理学療法士かつ登録された演題領域に沿う領域の実績を有する方を想定しています。

オーガナイズドセッションは「下肢装具」、「運動器」、「小児」、「地域」、「内部障害」、「脳卒中歩行」、「基礎研究」、「ニューロモデュレーション」の8カテゴリとなりますが、オーガナイザーや学術局の判断により変更がある場合があります。

▶**オーガナイズドセッション**：

オーガナイズドセッション（Organized Session）とは、特定のテーマに沿って企画・構成されたセッションとなります。

一般演題（自由応募の口述発表やポスター発表）とは異なり、学術局により指名させて頂いた

特定の分野の専門家や研究者が統一したテーマのもとで講演や討論を行う形式を取ります。

オーガナイズドセッションの演題分類は登録後に学術局で調整する場合があります。

○**発表時間**

「口述発表」の発表時間は1演題あたり発表7分、質疑3分の計10分となります。その後、会場移動せずに10分間、発表者と座長によるアフタートーク会を予定しています。

「ポスター発表」は所定の場所にポスター掲示を行い、その場にて60分フリーディスカッションとなります。

「実技発表」はポスター発表と同様となります。

応募演題に関する倫理上の注意

発表演題はヘルシンキ宣言に沿った研究であることをご確認ください。特に、プライバシーの侵害や人体に影響を与える研究に関しては、対象者に説明と同意を得たことを【倫理的配慮、説明と同意】項目に明記してください。

演者の所属する機関の倫理委員会等で承認された研究である場合には、その旨同項目に記載してください。

また、症例報告の場合も同様に、同意取得については口頭のみならず書面にて対象者または代理意思決定者に行い、その旨を必ず明記してください。以上の記載がない場合は、演題が採択されないことがあります。

応募上の注意

抄録に関する著作権は東京都理学療法士協会に帰属し、抄録はオンライン公開されます。演題名には商品名を記載せず、必要であれば一般名を記載してください。「訓練」は学術用語としては相応しくないとの意見がありますが、本学会においては使用を制限しません。訓練、練習、トレーニングなど、事実行なっている内容の目的に合わせた言葉を用いてください。演題登録締め切り後の演題の取り消しや登録内容の変更はお受けできません。応募された演題内容と学会当日の発表内容が大幅に変わることをないようにしてください。

採択された演題は発表時に利益相反（Conflict of Interest：COI）に関する開示をお願いいたします。利益相反 COI 開示について（抄録への記載は不要です。）

筆頭演者が発表できない場合は必ず共同演者が発表を行ってください。ただし発表のポイントは、筆頭演者となります。（二重発行、両者での分割はできません。）演題登録にあたり、共同演者の了解を得たうえで応募してください。なお、共同演者も筆頭演者と同等の責任を負うことをご承知ください。演題の採否、発表日時、発表形式や演題分類の最終決定は、大会長及び準備委員会に一任とさせていただきます。

査読ポリシー

・査読者の選定

本学会学術局が東京都理学療法士協会に所属する日本理学療法士協会が認定した専門ならびに認定理学療法士を査読者として選定いたします。

・応募演題への査読者割り当て

応募演題 1 題につき原則 3 名の査読者が査読します。

査読者が演者（筆頭・共同含む）である演題や、査読者の所属施設から応募された演題は、原則として当該査読者には割り当てません。

・査読内容

演題の採否は、下記の査読項目によって採点されます。

- 1) 独創性があるか
- 2) 理学療法に関する貢献性があるか
- 3) 抄録内容が適切か：「演題名とキーワード」
- 4) 抄録内容が適切か：「はじめにまたは目的」（序論）
- 5) 抄録内容が適切か：「方法または症例報告」
- 6) 抄録内容が適切か：「結果または経過」
- 7) 抄録内容が適切か：「考察」
- 8) 抄録内容が適切か：「倫理的配慮、説明と同意」

演題登録上の注意

【日本語登録】

文字数（全角文字 1 字、半角英数字 0.5 字として換算）と登録演者及び施設数の制限

（ア）演題名 全角 50 文字以内

（イ）抄録本文 全角 1,000 文字以内

（ウ）倫理的配慮、説明と同意 全角 300 文字以内

（エ）登録可能な最大演者数（筆頭演者＋共同演者）15 名まで

・共同演者の日本理学療法士協会会員番号も必要となります。正確な会員番号をあらかじめ確認してください。申請手続き中の方は入会申請後にログインし、発行された会員番号を入力ください。会員番号は下記に従い入力してください。

- 1) 協会会員または協会会員手続き中：8 桁の会員番号
- 2) 休会会員で復会手続き中：11
- 3) 非会員 理学療法士：22
- 4) 非会員 他職種：33
- 5) 非会員 学生：44（理学療法士免許を有する大学院生は除く）

（オ）登録可能な最大所属施設数 8 施設まで（所属施設は複数選択可）

・所属施設名は省略形を用いないもっとも短い表記にしてください。また、可能な限り法人格（医療法人〇〇会、独立行政法人等）は省略いただくとともに、同部署から複数の演題を登録する場合は、同一の施設名称に統一してください。

抄録の体裁

【一般演題】

・抄録本文は下記の小見出しにて作成してください。(小見出しも文字数に含まれます。)

【はじめにまたは目的】、【方法または症例報告】、【結果または経過】、【考察】

抄録入力欄は、あらかじめ Word などで作成した文章をコピー＆ペーストすることが可能です。上付き文字などもそのまま反映されるようになっておりますので、登録完了前には必ず確認画面にて正しく表示されていることをご確認ください。

抄録を入力する際に、登録画面上の「各アイコンの説明」を必ずお読みください。

・上付き文字、下付き文字が必要なときは、各アイコンを使用してください。

・< >の記号を使うときは必ず全角の< >か、アイコンの特殊文字から使用してください。

図表は掲載できません。

必要項目を入力終了後、一番下の「次に進む」をクリックすると、確認画面に変わります。この時点では登録完了していません。その画面で入力データを確認してから、「登録ボタン」をクリックしてください。これで登録完了となります。

登録ページに戻る際は、必ずページ下の「戻る」ボタンをご使用ください。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

演題登録・修正・削除

・演題登録期間中は、何度でも演題の修正・削除が可能です。

・演題の修正・削除には、演題登録時の演題登録 ID 及びパスワードが必要になります。演題登録 ID は登録完了の通知メールに記載されております。

・演題登録締め切り後の演題の取り消しや登録内容の変更はお受けできません。

【オーガナイズドセッション演題】

抄録の体裁は問いません。発表趣旨が伝わる様に適宜小見出しをつけて作成してください。

受領通知・採択通知

登録完了後、ご登録いただいたメールアドレスに登録完了の通知が送信されます。必ずご確認ください。

完了通知が届かない場合、他の受信フォルダー（迷惑メール受信フォルダーなど）や受信拒否設定等をご確認のうえ、運営事務局まで E-mail にてお問い合わせください。

演題募集に関するお問い合わせ

電子メールでお願いします。

件名は「第44回東京都理学療法学会大会演題募集に関する問い合わせ」と記載して下さい。

電話および FAX での問い合わせはご遠慮下さい。

問い合わせ先：44tokyoptgakkai@gmail.com

大会ホームページが開設されました

<https://jptm2025.gakujyutsuweb.net>



第60回
日本理学療法学術大会

第8回日本理学療法管理学会学術大会

理学療法管理の
喜びと基本

会期
2025年
12月6日(土)・7日(日)

演題募集
2025年
5月1日～6月15日

会場: 東京たま未来メッセ(東京都八王子市)
大会長: 中澤幹夫(多摩丘陵リハビリテーション病院)
副大会長: 豊田輝(帝京科学大学)
準備委員長: 宮城春秀(花と森の東京病院)
開催形式: 対面、一部アーカイブ配信
運営事務局E-mail: congress2@admin.jspt.or.jp

学術公式HP 学術公式X

※本学術大会は、第60回理学療法学術大会の1つとして開催されます。

中澤 幹夫 大会長からのご挨拶

臨床の場で活躍してきた理学療法士が管理職を担うようになると、「管理職になっちゃった」と自分自身を表現することがあります。現場で理学療法を実践することが少なることへの寂しさから出てくる言葉かもしれません。私自身は、目の前の患者を少しでも良くするために、理学療法について一所懸命研鑽を積んできましたが、理学療法管理に関しては学んでは来なかった気がします。良い臨床家が、良い管理者になると誤解していたのかもしれませんが。良き縁があり日本理学療法管理研究会に入れていただき、管理について学ぶ機会を得ました。この管理について学ぶ中で、臨床ではない、管理者としてのやりがいを感じるようになり、管理者としての目標を持つようになり、その中で小さな喜びも感じられるようになりました。このような経験を参加者と共有したく、今回の学術大会のテーマを「理学療法管理の喜びと基本」としました。近年、若いスタッフが管理職になりたがらないという話が聞こえてきます。現在、管理を担っている管理者が喜びを感じられるようになると、管理者を目指すスタッフが現れてくると思っています。

会場のある東京都八王子市は、高尾山が有名な街です。その年の気温にはよりますが、12月はまだまだ、紅葉がきれいな時期となります。準備委員一同、皆様のご参加をお待ちしております。

第8回日本理学療法管理学会
学術大会長 中澤 幹夫
(多摩丘陵リハビリテーション病院)

テーマ Fresh ～栄養嚥下理学療法の個性～

- ・会期：2025年9月6日(土)～7日(日)
- ・会場：東京たま未来メッセ(東京都八王子市)
- ・大会長：松嶋 真哉(杏林大学)
- ・開催形式：現地開催 + 一部ライブ配信 + オンデマンド配信
- ・公式HP：<https://jsnspt2025.com>
- ・演題募集期間：～2025年3月14日(金曜日)
- ・登録開始：2025年6月予定

プログラム

大会長基調講演

- ・松嶋 真哉 先生(杏林大学)：私が考える栄養理学療法の個性

特別講演

- ・中西 信人 先生(神戸大学)：骨格筋量の評価
- ・村松 憲 先生(杏林大学)、渡邊 航平 先生(中京大学)：骨格筋機能・神経機能を守るための運動療法と栄養療法
- ・野々山 忠芳 先生(福井大学医学部附属病院)、清水 昭雄 先生(三重大学医学部附属病院)：骨格筋量を守るための運動療法と栄養療法

ジョイントセッション

- ・日本栄養治療学会 栄養治療リハビリテーションWG：栄養治療に関する関連職種から見た理学療法士の個性(企画)
- ・日本老年歯科学会：口腔機能維持・向上を通じた対象者の健康のための歯科と理学療法のコラボレーション(企画)

研究推進委員会企画セッション

- ・板垣 篤典 先生(東京都立大学)、阿部 貴文先生(魚沼基幹病院)、
白土 健吾 先生(麻生飯塚病院)、鎌田 夏未 先生(日本医科大学千葉北総病院)
「私」の臨床研究、未来への道 - 多様な立場からのメッセージ

機関紙特別企画セッション(企画)

八王子市連携企画セッション(企画)

市民公開講座

・長野 文彦 先生 (熊本リハビリテーション病院) : リハビリテーション、栄養、口腔機能の三味一体でつくる健康寿命延伸

教育講演 (オンデマンド配信のみ)

・栄養・嚥下理学療法学会事業

栄養・嚥下理学療法のミニマムスタンダード 嚥下理学療法のコンセンサスブックについて

- ・疾患別の栄養・嚥下理学療法 (7 講演)
- ・これからの栄養・嚥下理学療法のために知っておきたいこと (4 講演)

大会の最新情報は、公式 SNS(X(旧 Twitter)、Instagram、Facebook) にて随時発信しております。ぜひフォローのうえ、情報をご活用ください。

・公式ハッシュタグ : 「# フレッシュ学会」 「#JSNSPT2025」

松嶋 真哉 大会長からのご挨拶

《大会テーマに込めた想い》

「Fresh」という言葉には、「新鮮な」「出来立ての」「新たな」「斬新な」「記憶に生々しい」などの意味があります。本大会では、そのような Fresh な学術的知見・観点・体験に触れる機会を提供することを目的としています。

栄養治療や摂食嚥下療法には、それぞれの専門職が存在し、多職種による連携が重要視されています。理学療法士は、これまで様々な職種と協働し、患者の健康と QOL 向上に貢献してきました。今後は、その連携の基盤を活かしつつ、理学療法士がこの分野でどのような役割を担い、どのような強みを発揮できるのか「個性」を模索していくことが求められます。

本大会では、栄養・嚥下理学療法における「個性」とは何かを、参加者の皆様と共に議論し、考える場としたいと考えています。

Fresh な視点を持ち寄り、理学療法士の新たな役割や可能性を一緒に模索していきましょう。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

報告者 第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会企画・広報委員
渡邊拓磨 (聖マリアンナ医科大学病院)

第60回
日本理学療法学会学術大会

11th JSNSPT 第11回
日本栄養・嚥下
理学療法学会
学術大会

FRESH

～栄養嚥下理学療法の個性～

The 11th Annual Meeting of Japanese Society of Nutrition and Swallowing Physical Therapy

2025年 9月 6日(土)・7日(日)

オンデマンド配信期間
調整中

会場 | 東京たま未来メッセ
〒192-0046 東京都八王子市明神町3丁目19-2

演題登録期間 | 2024年12月1日～
2025年2月28日

大会長 | 松嶋 真哉
(杏林大学保健学部リハビリテーション学科)

参加登録開始 | 2025年6月予定

準備委員長 | 最上谷 拓磨
(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)

※本学術大会は、第60回理学療法学会学術大会の1つとして開催されます。

大会公式ハッシュタグ | #JSNSPT2025 #フレッシュ学会



大会公式HP



instagram



X



facebook

地域活性局
都民向け支部事業報告会 開催報告

日時：2025年2月19日（水）19：00-21：00

会場：TKP 新宿カンファレンスセンター

カンファレンスルーム 6B

参加者：25名

発表事業：

- ①福生市支部 ふくふくまつり リハビリ相談会
歩行分析 AI トルトを活用した健康意識への取り組み
福生市支部 高橋 匠
- ②練馬区支部 健康・介護予防イベントにおける相談会
～体組成計による区民健康相談会と学校保健事業～
練馬区支部 岡崎 俊秀
- ③神津島での健康福祉祭りにおける講演会
区中央部区南部島しょブロック部 川井 孝士
- ④豊島区支部 運動器の健康増進支援に関する講演会
パパといっしょに体を動かして遊ぼう
豊島区支部 鈴木 享之

内容：福生市支部からは、リハビリ相談会で歩行分析 AI を用いた評価と相談が実施され、70代の参加者が最も多かったとのこと。練馬区支部からは、体組成計を用いた健康相談会と学校保健事業について説明があり、約50人以上の参加者があり、継続的な健康管理の重要性が強調されました。区中央部区南部島しょブロック部から神津島での健康福祉祭りにおける講演会活動について報告があり、島民の健康増進の必要性と理学療法士の役割について議論されました。豊島区支部からは、「パパと一緒に体を動かす」講座が都士会主催事業より委託事業へと推進してきた経過を含め報告があった。4事業の報告を通じて、地域における理学療法士の重要な役割と、AI技術の活用、世代間交流の促進、学校保健活動の展開など、多様な取り組みが共有されました。

報告会の最後に、今年度で都士会を離れられる千葉業務執行理事にお礼を伝えました。



区西北部ブロック部 板橋区支部
ウィメンズヘルス教室開催報告

日時：2024年10月22日、11月7日、11月21日、11月27日、11月29日、12月9日、2025年1月29日、2月25日

場所：板橋区児童館（弥生児童館、清水児童館、あずさわ児童館、ゆりの木児童館、はすのみ児童館、さかうえ児童館、上板橋児童館、赤塚児童館）

参加者：132名

担当：板橋区支部 理学療法士 各会場1名、計8名

内容：

板橋区児童館CAP'Sにおいて、希望のあった8児童館に対して共催事業を実施しました。子育て支援教室として「理学療法士によるからだケア」と題して講座を開催しました。本講座は乳幼児とともに参加するスタイルであったため、児童館職員に母子のサポートを頂きながら、無事に全講座を終えることができました。講座は、産後のトラブルに多い痛みについて、産前・産後の身体変化や抱っこ・授乳など育児時の姿勢に起因する痛みについての知識的講義および姿勢のセルフチェック、痛み予防のためのストレッチや筋力強化運動の実技を行いました。参加者の多くは、不慣れな育児生活において、セルフケアの時間を確保することが難しい方や、不調を感じていても相談をする機会がなく、また誰に相談をしたらよいか知らないという方々がおりました。30分講座に加え、個々の不安や悩みに対して個別相談も行いました。個別相談においては、講座内の「痛み」についてのことが多く、対応策についてのアドバイスを行いました。また児童館職員の方々からは、「講座を一緒に受けてみて知ることが多く参考になった。」や「参加できなかった方々にも教えていこうと思う。」など日常業務に活かしたいといった感想を頂きました。

専門職によるウィメンズヘルスに関する取り組みは、地域からの希望もありますし、理学療法士の専門性を活かした活動でもあるため、引き続き取り組めればと思います。



報告者：板橋区支部員 林依子（板橋ロイヤルケアセンター）

区西北部ブロック部 板橋区支部
 社会人アドバイザー交流会 都立板橋高校 開催報告

日時：2025年2月5日（水）

場所：東京都立板橋高校

対象者：都立板橋高校1年生

参加者：生徒約40名

講師：1名 サポートスタッフ：1名

内容：

板橋高校にて行われた社会人アドバイザー交流会にて、「理学療法士」としての働き方や社会での役割・活動を、高校1年生を対象にお話ししてきました。スポーツ競技中の怪我や、ご家族が実際に理学療法士に携わったことがある生徒さんも多く、「理学療法士」に興味を持ち、参加される方が多くいらっしゃいました。身体に障害のある方に対し、動作の専門家として寝返る・起き上がる・立ち上がる・歩くなどの日常生活を行う上での改善を目指すために、動作改善に必要な技術を用いながら治療する役割を果たす、主に医療機関・介護分野での働き方や、介護予防や生活支援等、地域社会・行政機関での働き方等、「理学療法士」としての働き方の幅広さを知っていただく良い機会となりました。

講義の中で、ストレッチを行い身体が何故柔らかくなるのか、何故柔らかくならなかったのかと具体的に自身の身体を通して、「理学療法士」としての思考もお伝えし、生徒の皆さんからは「まだ将来何になるか悩んでいますが、理学療法士としての仕事のやりがいや楽しさを知ることができました。」といった声をいただき、働き方だけではなく、高校1年生の将来の選択肢として「理学療法士」として働くことのやりがいをお伝えすることができたと実感しました。今後も地域活動を通し「理学療法士」としての役割を果たすとともに、その活動内容も広く周知できるようにしていきたいと思っております。



報告者：佐々木 奨之（医療法人社団 健育会 竹川病院）

区西北部ブロック部 豊島区支部
フレイル予防対策機器活用講座 開催報告

開催場所：豊島区内の区民ひろば計 22 カ所

内 容：

豊島区内の各区民ひろばに設置されているフレイル対策機器（NEC 社の歩行姿勢測定システムおよびタニタ社のザリッツの計 2 種類）は、介護予防事業の重点として活用されています。今年度でこのフレイル対策機器活用講座（豊島区委託事業）は 4 回目を迎えました。今年は計 22 ヶ所の豊島区の区民ひろばで歩行姿勢測定システムとザリッツの講座を行い、延べ 250 名を超える方々に参加して頂きました。

今年度は講座内容のブラッシュアップを行い、ストレッチや体操などの身体を動かす機会を増やしています。また、測定の待ち時間を利用した「豊島区パタカラーズ」の方々による口腔体操も開始となり、より全身的なフレイル予防を目指した内容となりました。

講座では、参加者や区民ひろばの方々から運動方法や機器の利用方法に関する質問を多くいただいております。地域の方々のフレイル予防への関心が年々高まっていることを実感しています。来年度も引き続き本事業を委託できることが決定しておりますので、今後も機器の理解をさらに深めるための講座や、適切な介護予防に関する運動療法を楽しくお伝えしていければと考えています。



報告者：犬塚 遼太（ゆみのハートクリニック）

区西北部ブロック部 豊島区支部
 パパといっしょにからだを動かして遊ぼう講座 開催報告

日時：2024年11月～2025年2月（全4回/各月1回）10:30～11:30

場所：区民ひろば千早

対象：2歳～未就学児の親子（父親と幼児） 合計 57名

講師：鈴木享之（長汐病院）、片見奈々子（まつおか整形外科クリニック）

アシスタント：片見奈々子（まつおか整形外科クリニック）、酒井大将（山王リハビリ・クリニック）

見学者：高橋勇希

参加理由：以前、東京マラソン財団様から東京都理学療法士協会スポーツ局への依頼の元開催された東京レガシースタジアム2024パラスポーツブースのスタッフとして参加しました。そこで、参加した子どもや大人ととても楽しそうにパラスポーツを楽しむスタッフを目の当たりにして、豊島区支部にて行っている子ども（幼児）とパパを対象とした「遊び」とともに発達過程を学ぶ講話があることを聞き、是非参加してみたいと思ったのが切掛けで、昨年末より参加しています。

内容：各部位の撫で確認・くすぐるなどのスキンシップと感覚入力の大切さ、そして、子供を褒めて笑顔を作ることをパパに伝えて、からだを動かして遊ぶことが講座を通して行われていました。また、「立つ・起きる・回る・組む・ぶらさがる（バランスを取る動き）」などの「幼児期に身につけておきたい36の動作」をもとに、将来の運動やスポーツに活かせる運動器（特に神経系）の発達を促す「遊び」を通して、子どもの発達段階のチェックポイントとこれから伸ばしていくポイント等を提供していくスタイルで子ども達の笑い声が響く楽しい場となっていました。最初、お父さん達は「褒める」事が苦手で、子どもを全力で褒める事ができず、子ども達の笑顔も疎らでしたが、講師の「褒める」お手本の後、再度「褒める」事をした時には、子ども達全員が満面の笑みになり、その後の遊びの取り組みも積極的になっていた事がとても印象的でした。1時間と短い時間でしたが、子ども達の成長はもちろん、お父さん達の行動変容もあり大変素敵な講座だと感じました。

子供の発達発育について学べる遊べる運動できる親子講座を通じて、体験的学習から行動変容に繋がれば、将来的に転倒予防そして健康寿命の延伸に貢献できる一助となり得る可能性もあるため、大田区支部でも同様の活動を展開出来るよう研鑽していきたいと思えます。



報告者：酒井大将（山王リハビリ・クリニック）

区西北部ブロック部 豊島区支部
 ウィメンズヘルス講座 開催報告

日時：2024年12月20日（金） 11:00～12:00

会場：区民ひろば千早

対象：産後女性

参加者数：15名

講師：片見 奈々子（まつおか整形外科クリニック）

アシスタント：永野 加奈子（都立大塚病院）

内容：

豊島区支部では、令和6年度よりウィメンズヘルス講座を開始しました。

産後の女性はさまざまなマイナートラブルを抱えていると言われてはいますが、実際にどのような悩みやニーズがあるのかを把握するため、アンケート調査を実施しました。

調査の結果、肩や腰、手首などに痛みを感じている方が多く、整形外科や接骨院を受診したものの改善には至らなかったという声が寄せられました。また、姿勢の崩れや体調不良を改善するために軽い運動をしたいと考えているものの、子育てに追われて自分の時間が取れないという悩みも多く聞かれました。

これを受けて、講座では痛みや姿勢改善のためのストレッチを中心に構成し、赤ちゃんとコミュニケーションを取りながら行える体勢や内容を工夫しました。また、日常生活の中で取り入れやすいように、ワンポイントアドバイスも加えています。

今後も、多くの悩みを抱える産後の女性に対して、理学療法士が地域で関わることで、子育て世代の女性に寄り添える活動を継続していきたいと考えています。



報告者：片見 奈々子（まつおか整形外科クリニック）

区西北部ブロック部 北区支部
理学療法士による介護予防体操教室 開催報告

日時：2024年11月28日（木）

会場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館

講師：渡邊祐介

補助：岩山 睦、羽根川真実

参加者：12名

内容：この度は、東京都障害者総合スポーツセンターの介護予防教室として、障害者の方々を対象に今年度4回目となる体操教室を実施いたしました。今回はタオルを使用した、椅子に座ってできる運動を行いました。今年度は身近な物品を使用してできる運動を実施しております。タオルを使用して四肢で把持してストレッチをしたり、タオルで擦ったり、引っ張ったりしながら関節可動域運動や筋力強化運動を実施しました。今年度は全部で5回の教室を実施する予定です。次回は来年1月にはペットボトルを使用した筋力トレーニングの運動教室を開催できればと考えています。参加者の皆さんには今後の教室も楽しんでいただきながら、実施してもらえたらと思います。



報告者：東京脊椎クリニック 渡邊祐介

区西北部ブロック部 北区支部
理学療法士による介護予防体操教室 開催報告

日時：2025年1月30日（木）
会場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館
講師：渡邊祐介先生（東京脊椎クリニック）、
アシスタント：岩山睦先生（浮間中央病院）、向家知宏

参加者：12名

内容：このたび、東京都障害者総合スポーツセンターの介護予防教室として、障害のある方々を対象に、今年度5回目となる体操教室を渡邊祐介先生に実施していただきました。今回は、ペットボトルを使った座位でできる運動を体幹・下肢、上肢に分けて行いました。水の入ったペットボトルを水平に保ちながら動かす動作に参加者の皆さまも最初は苦戦していましたが、繰り返し行うことで徐々に習得されていく様子が印象的でした。参加者の方からは、「来る前よりも腰が伸びて、動かしやすくなった！」とお声を頂きました。

今年度の介護予防体操教室は、今回をもって終了となりますが、来年度も引き続き実施を予定しております。地域の皆さまの健康維持・介護予防に貢献できるよう、より良いプログラムを提供してまいりたいと思います。



報告者： 向家知宏（浮間中央病院）

区西北部ブロック部 北区支部
東京・赤羽ハーフマラソンのサポート&相談会 開催報告

日時：2025年1月19日（日）

大会名：第16回東京・赤羽ハーフマラソン大会

主催：北区陸上競技協会

場所：新荒川大橋区宮野球場

参加者：約2000名（ブース来場者156名）

スタッフ：18名

内容：東京・赤羽ハーフマラソン大会は今回で5回目のサポートとなりました。昨年の悪天候とは違って今年は天候に恵まれランナーの方も気持ちよく走れたかと思います。今回のマラソン完走者は1975名であり理学療法士ブースには156名の方に来ていただきました。主なサポート



内容はマラソン大会前の予防テーピングや大会後のストレッチ・マッサージを中心として関わらせていただきました。ランナーの方からは大腿部や下腿部等の下肢の疲労感や痛みを改善してほしいという訴えが多く聞かれました。またアンケートにお答えいただいたランナーの方のほとんどから「また利用したい」とのお声を頂くことができました。今後のサポートにつきましてもランナーの方のニーズにお応えできるように準備をして取り組んでいけたらと思います。



報告者：佐久間 比呂（大橋病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部
学校保健事業活動 開催報告

日時：2024年11月14日（木）

場所：練馬区立橋戸小学校

対象者：小学5年生50名

講師：菅野雄大氏（練馬光が丘病院）

アシスタント：理学療法士7名

【内容】

練馬区支部では、以前より学校保健事業に携わっており、理学療法士の視点から児童を対象に生涯教育を行っています。今回、小学5年生を対象に総合学習の一環として「けがの予防」について講師依頼を頂いたため、けがについての講義と予防策としてストレッチの実技を中心に実施しました。

講義の前半は、けがについて「障害」と「外傷」の違い、児童が遊びやスポーツに取り組む際に起こりやすいけがを取り上げ講義を行いました。成長期の身体に対し、ジャンプ、走る動作で起こりやすいオスグッドや捻挫、ドッジボールでの突き指など、普段体を動かしている際に発生しやすいけがを例に挙げ説明を行いました。また、後半の実技に向け、けがの予防策として運動前にストレッチを行う大切さを伝えました。自身が怪我をした体験や兄弟姉妹が怪我をしたなど、身近に起こりやすい場面やけがの種類を伝えることで、「気をつけよう」といった声もあり、誰でも起こりうる一方、ストレッチで予防することができるという気付きがあったと思います。

後半は、けがの予防としてストレッチを実技形式で行いました。講師とアシスタントによる見本を見た後、2人1組になりストレッチ前後での体の変化を体験しました。ストレッチ前後の体の変化を比較することは、ストレッチの効果を確認すること、体の柔軟性がスポーツによるけがの予防につながることへの理解に繋がったと思います。

今回、けがの予防として講義を行ったことにより、けがへの理解、予防の重要性の教育の一助になればと思います。また、理学療法士が講義・実技を通し、学童期の生涯教育に携わることは、けがの予防への関心や介助を必要としている人への手助け、配慮を行えるきっかけを作ることができると感じました。そのために、学童期の生涯学習を継続し携わる重要性を得ました。



報告者：石崎裕佳（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部
学校保健事業活動 開催報告

日時：令和7年1月28日（火）

場所：練馬区立光が丘第八小学校

対象者：小学5年生 39名

講師：久保川優氏（ライフサポートひなた）

アシスタント：理学療法士7名

【内容】

練馬区支部では、以前から様々な学校保健事業に携わっており、今年度も区内の小学校で色々な学校保健事業を実施させて頂きました。特に、練馬区立光が丘第八小学校では継続的に学校保健事業を実施させて頂いており、学校の先生や児童、私たち理学療法士も顔見知りとなっていて、児童の成長を実感しやすく、毎回アットホームな雰囲気です。今年度、同小学校では、学校保健事業として姿勢指導、車椅子体験なども実施させて頂き、今回は、小学5年生を対象に総合学習の一環として「けがの予防」について授業の2コマ分を頂き、けがについての講義と予防策としてストレッチや運動を実施させて頂きました。

講義の前半は、教室にてスライドを使用しながら、児童が興味・集中しやすいようにクイズ形式で児童参加型の授業をしながら、「障害」と「外傷」の違い、人の身体について、小学生が行っているスポーツや小学生に多いけが等についての知識を深めて頂きました。その後、授業の場所を体育館に移し、理学療法士が児童をサポートしながら身体の柔軟性のチェック、児童に多い突き指や足の捻挫の予防運動、ストレッチ、立位バランスチェックと立位でのバランス練習などの実技を実施させて頂きました。児童が自分の身体の状態を知る良い機会でもあり、身体を動かしながら興味深く参加して頂いている様子を実感できました。

今回、けがの予防の講義を実施したことにより、児童のけがへの理解、予防の重要性の教育の一助になればと思います。引き続き、練馬区支部では、このような学校保健事業を行い、児童に理学療法士という職業を知って頂き、安心・安全・楽しい学校生活を送るために学校教育の場で理学療法士が活動できる一助となればと思います。



報告者：瀧本知未（慈誠会・練馬高野台病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部
学校保健事業活動 開催報告

日付：2024年12月13日（金）

対象：練馬区立光が丘第八小学校4年生36名

講師：古庄 秀明氏（練馬光が丘病院）

アシスタント：理学療法士7名

内容：

練馬区支部では、小学校での講演や児童への授業を継続して行っています。今回、小学4年生を対象とした車椅子体験を依頼され、練馬光が丘病院の古庄秀明氏が講師を担当し、授業を実施しました。授業は体育館で行い、前半は「理学療法士の紹介」「車椅子体験の目的」「車椅子の使用・操作方法とその際の注意点」について説明をしました。後半は実技の時間として、実際に車椅子に乗ったり操作したりする車椅子体験を行いました。

車椅子体験では安全性に十分配慮し、車椅子体験中は常にアシスタントが児童の傍に付き添う形で進めました。デモンストレーションの説明もあったため、児童たちは乗車の手順を守り、安全を確認しながら乗車や操作を行っていました。また、車椅子を操作する際（自走も含む）のコースには、不整地も用意し、傾斜のある道や柔らかい地面の道、障害物をよける道、溝を通る難しさを体験してもらいました。個別の質問や車椅子体験後の全体質問では、「雨の日に地面がぬかるんでいる場合や踏切を通る場合はどうするのか」「電車にはどうやって乗るのか」といった具体的な質問が出されました。これにより、児童たちが車椅子利用者の生活に関心を持ち、日常生活の工夫や課題について考える良いきっかけとなったことが伺えました。



毎年、学校保健事業に参加しておりますが、今回の授業を通して徐々に理学療法士への認知が広がっている様子が伺えました。また、車椅子体験で、児童たちが車椅子に関心を持ち、理解を深めてくれたことを実感できる貴重な機会となりました。

今後も学校保健事業を継続し、小学生に理学療法士の役割や活躍について知っていただくとともに、社会福祉への関心も高めていってほしいと考えています。

報告者：菅野雄大（地域医療振興協会・練馬光が丘病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部
学校保健事業活動 開催報告

日時：2025年1月20日（月）
 場所：練馬区立光が丘第八小学校
 対象者：3年生 20名×2クラス 特別支援学級 7名
 講師：岡崎 俊秀 氏（練馬高野台病院）
 西田 喜実弥 氏（練馬光が丘病院）
 アシスタント：理学療法士 4名

内容：

練馬区支部では小学校の養護教諭の先生より依頼を受け、学校保健事業として小学校での講演会や児童への授業を行っています。この度は、練馬区立光が丘第八小学校の3年生を対象に1時限ずつ姿勢指導の講義を実施しました。

講演内容としましては、前半は講義として「理学療法士について」「姿勢とは何か」「良い姿勢と悪い姿勢の違い」「悪い姿勢はどのような影響を与えるか」等についてスライドを用いながら説明を行いました。後半は実技として頭部の重さ体験や姿勢チェック、バランスチェック、良い姿勢のためのストレッチや筋力トレーニングの紹介等を行いました。講義中は児童からも積極的な発言が聞かれ、実技の場面では理学療法士と児童がコミュニケーションを取りながらそれぞれ自分の姿勢について考えられているようでした。

今後も地域の子どもの健やかな成長を支援できるよう、微力ながら活動していきたいと思っております。



報告者：川村優希未（大泉生協病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部
学校保健事業活動 開催報告

日時：2024年12月13日（金）

場所：練馬区立光が丘第八小学校

対象者：小学4年生35名

講師：古庄秀明氏（練馬光が丘病院）

アシスタント：理学療法士4名

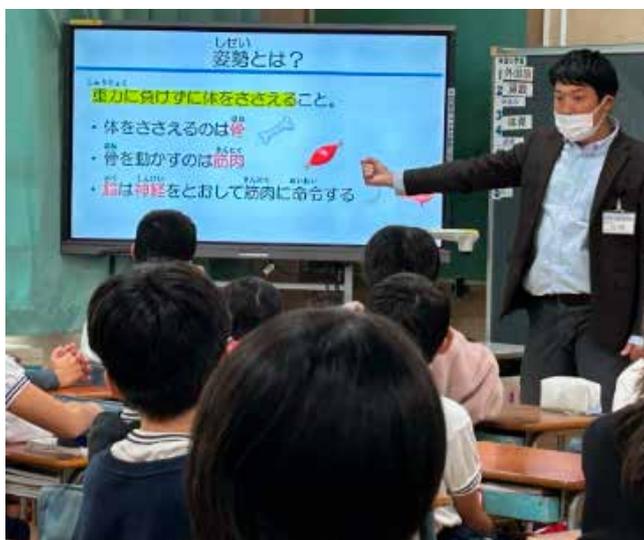
【内容】

練馬区支部では、小学校の先生方からの依頼を受け、学校保健事業の一環として小学校での講演会や児童への授業を継続して行っています。今回、小学4年生を対象とした姿勢の授業を依頼され、練馬光が丘病院の古庄秀明氏が講師を担当しました。

授業の前半はスライドショーを見ながら講義形式で実施しました。それぞれの場面に適した姿勢を紹介しながら、筋肉や骨など体の仕組みについてと重力が悪い姿勢に与える影響についてお話ししました。児童たちは各々が習っているスポーツや普段の遊びの時の姿勢を質問するなど、挙手して積極的に参加している様子が見られました。

授業の後半は頭の重さ体験やサポートの理学療法士による姿勢チェック、片足立ち保持などの体験を交えた授業内容でした。頭の重さ体験は棒の先に2.0kgの重錘を装着し、頭部の重さを模したものをを用いて、頸部が垂直である場合と頭が垂れたときに頸部にかかる重さの違いを実際に感じていました。また、姿勢チェックは一人ひとりに対して理学療法士が姿勢を確認し、「頭が離れている」「腰がそっている」「まっすぐ立っている」などの項目に立位姿勢が該当するかを判断して児童にフィードバックをしました。児童たちは自分の姿勢の特徴に興味を持ちながら、姿勢をよくするためにできる体操やトレーニングについて質問する場面もみられました。片足立ち保持は2分間の片足立位を保持できるか時間を図りながら、一斉に実施しました。教室内で実施したため、サポートの理学療法士が児童らの間に立ち、バランスを崩した際にサポートできる体制を整えて行いました。

今後も小学校での学校保健事業を継続し、小学生に理学療法士の役割や活躍について知っていただくとともに、健康について関心を持っていただきながら、児童たちが実際に無理なくできる体操や運動を理学療法士として広めていきたいと考えています。



報告者：西田 喜実弥（地域医療振興協会・練馬光が丘病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部
学校保健事業活動 開催報告

日時：令和6年11月29日（木） 8:15～12:45

場所：練馬区立大泉小学校

対象者：小学校教職員4名、在校生（6年生）99名、特別支援学級5名（合計108名）

講師：岡崎 俊秀 氏、瀧本 知未 氏（慈誠会練馬高野台病院）

アシスタント：理学療法士13名

内容：

練馬区支部では、支部発足直後より学校保健事業に携わせて頂いています。今回、以前より親交のある練馬区立大泉小学校の6年生に対し、授業4コマ分を頂き、「高齢者・車椅子体験会」を実施しました。今回の講義の目的としては、高齢者はそれまでの人生の中で様々なご活躍をされて現在に至っており、その高齢者に対して尊敬の念を忘れず、「ありがとう」の気持ちをもてるようになるということ、人はどのように老いていくのかを考え、その結果として様々な心身機能が衰えてしまう事を理解するという事を掲げました。

講義内容は、はじめに理学療法士についての紹介を行い、次に車椅子の種類や部位の名称、高齢者についての定義や特徴等をお伝えしました。実際の体験会では、車椅子においては、自走ブース、介助ブースに分け、不整地やスロープ、障害物を避けながら自走や介助を行ってもらい、車椅子を使用する方の障壁について介助方法等を体験してもらいました。高齢者体験では、高齢者体験キッドを使用し、児童たちに高齢者の円背姿勢を模倣した状態での杖歩行及び歩行介助やボール投げ等を行い、歩行や運動の行いづらさを体感してもらいました。また、視覚障害及び上肢機能障害を呈した状態での飲水動作や、聴覚障害を呈した状態での会話等を行い、日常生活での制限を体感し、高齢者への理解を深めてもらいました。

児童たちは終始興味を持ちながら授業に参加しており、たくさんの質問があがりました。私たちが学校教育の一場面に関わらせて頂き、児童が高齢者や障害を持った方を理解し手助けを行う第一歩を踏み出すための良い機会になると同時に、私たち理学療法士に興味を持ってもらう機会にもなったのではないかと思います。

練馬区支部では、今後もこのような学校保健事業を継続的に行い、児童や生徒に理学療法士という職業を知って頂き、地域の方々とよりよい関わり合いが行えるように学校教育の場で理学療法士が活動できる一助となればと思います。



区西北部ブロック部 研修会 開催報告

日時：2025年1月16日（木）

会場：WEB

テーマ：『急性期～生活期のスペシャリストが伝える循環器疾患に関するフィジカルアセスメントとリスク管理のコツ』

講師：土田悠人氏（東京北医療センター）

米田暉氏（慈誠会・練馬高野台病院）

阿部勝俊氏（辻内科循環器科歯科クリニック）

座長：高橋勇貴氏（東京北医療センター）

参加者：124名（うち都士会員54名）

内容

区西北部ブロックでは、毎年会員向けの研修会を年に数回行っております。今回は昨年度に引き続き循環器疾患に関する研修会を実施しました。テーマは「急性期～生活期のスペシャリストが伝える循環器疾患に関するフィジカルアセスメントとリスク管理のコツ」として各病期にて循環器診療に携わっている先生方にオンラインにてご講義をして頂きました。講師は急性期から東京北医療センターの土田悠人氏、回復期から慈誠会・練馬高野台病院の米田暉氏、生活期から辻内科循環器科歯科クリニックの阿部勝俊氏に依頼し、それぞれの立場からどのように評価・治療を展開していくかについてわかりやすくお話しして頂きました。

参加者は当ブロック部の研修会としては過去最多の124名に上り、北は北海道、南は沖縄まで、全国の方々にお聞き頂きました。また質疑応答では、多くの方から質問を頂き、活発な議論を展開することができました。

心不全パンデミックと言われる通り、循環器疾患患者は増加傾向にあり、さらに循環器対策基本法の制定や回復期での心大血管リハの算定開始など、今後もこの領域における理学療法士の役割はさらに増えることが予想されます。

区西北部ブロック部では、今後も都民や会員のために有意義になるような企画や事業を行っていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



報告者：古庄秀明（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

区中央部・南部・島しょ部ブロック部 研修会・症例検討会 開催報告

開催日：2025年1月19日（日）研修会 9：30～12：40 症例検討会 13：30～14：40

開催場所：東京科学大学病院 3号館講義室1

【研修会報告】

テーマ 小児領域の訪問リハビリテーション

講師 後藤 晴美 先生

座長 山手 千里 先生

参加者：36名（都士会員 25名・医療従事者 2名）

内容：この度は、「小児領域の訪問リハビリテーション」というテーマで、医療財団法人はるたか会の理学療法士 後藤晴美先生にご講演いただきました。理学療法士のみならず、小児の診療に関わるコメディカルもご参加いただきました。

小児患者の多くは呼吸に問題を抱えており、まずは、唾液を出すことが大切であるということが印象的でした。事例を通しながら、丁寧にご解説頂き、大変に勉強になりました。

引き続き、本ブロックでは定期的に研修会を開催しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

【症例検討会報告】

症例検討会：2 演題

延べ参加者：93名

内容：対面開催でありましたが、非常に多くの方にご参加いただきました。他県士会や遠方の方の参加者もみられ、改めて症例検討会のニーズが高いことが伺えました。ディスカッションも活発に行うことができ、演者も含め有意義な症例検討会でした。

ブロック研修会同様、症例検討会も定期的に行ってまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。



報告者：小川 英臣（東京科学大学病院）

区西北部ブロック部 渋谷区支部 研修会 開催報告

日時：2025年1月31（金） 18:30～20:00

会場：初台リハビリテーション病院 リハ室 参加者 31名

プログラム

I部 研修会：『活動量向上に向けた理学療法の実践』

II部 交流会：施設紹介+グループワーク（意見交換会）

内容：今回、コロナ後初のオール対面で研修会を開催しました。プログラムは研修会と交流会の2部構成とし、I部の研修会では、主に回復期から生活期における脳卒中患者を中心とした活動量向上に向けた取り組みについて、4つのブース（ウェルウォーク / 装具療法+天井走行 / 活動量計 / スパイダー）を設置し、リハ機器や具体的なアプローチ方法の紹介を、実際の機器を使用し体験を交えて実施しました。II部の交流会では、渋谷区内で働くもの同士、顔の見える関係性づくり、交流連携を深める一環として、参加の各施設・事業所がスライド2枚で自施設の紹介と経験年数別に分かれて意見交換グループワークを実施しました。急性期～回復期の病院、生活期の施設（訪問看護ステーション、介護施設、障害福祉施設やNPO法人など）医療・介護・福祉まで幅広い分野で活躍している11施設の紹介があり、31名の参加者がお互いどのようなフィールドで活躍しているか、それぞれの特徴や強みを知る機会となり、大変有意義な時間となりました。今後も支部として理学療法サービスの質向上に向け、お互い切磋琢磨して良い刺激を受けられるような場を企画していきたいと思っております。



報告者：山中 誠一郎（初台リハビリテーション病院）

区中央部・南部・島しょ部ブロック部 大田区支部
大田区支部研修会②開催報告

日時：2025年1月24日(金)

講師：大淵修一先生

参加者：23名

場所：牧田総合病院 A棟1階くすのきホール

内容：

「これからの時代に求められる高齢者ケア」がテーマの前半では、大淵先生よりご講義を頂きました。地域在住の高齢者に社会的役割を持たせ、そこに対して我々専門職が支援していく。今後、高齢化社会が加速する日本において、新しい社会の形を築いていく必要性和高齢化社会での専門職の在り方を考える良い機会となりました。後半では、地域で活躍されている参加者の皆さんでの意見交換もあり、盛り上がりを見せた会となりました。



報告者：本田大空（JCHO 東京蒲田医療センター）

区中央部・南部・島しょ部ブロック部 大田区支部

介護予防研修会 開催報告

「見守りコーディネーターの皆さんと考える大田区の介護予防の課題と未来」

～間近に迫った「2025年問題」、そして「2040年問題」へ～

日時：2024年12月20日（金）19:00～21:00

場所：大田消費者生活センター 大集会室

講師：見守りささえあいコーディネーター 3名

松本 陽子 氏（大田区地域包括支援センター新井宿）

大森 秀樹 氏（大田区地域包括支援センターやぐち）

櫻井 潤二 氏（大田区地域包括支援センター久が原）

内容：

本研修会は、地域包括支援センターの見守りささえあいコーディネーターの活動内容や課題を共有して頂き、地域が抱える課題や解決に向けた取り組みについて考えることを目的に開催されました。見守りささえあいコーディネーターは、大田区内に23か所設置されている地域包括支援センターに1名ずつ配置されています。介護保険では対応できない高齢者の生活や社会参加に関するニーズを民間事業者や住民主体グループなどが展開する活動を通し充足していく「生活支援体制整備事業」をコーディネートすることを業務とされています。

第1部では、講師の方それぞれの担当地区における活動内容を発表して頂きました。企業と共同で行った事業やつどいの場への参加率の低い男性を対象を絞った活動支援、地域の諸課題解決に向けた活動について紹介して頂きました。第2部の座談会では、座長進行のもと参加者との意見交換が行われました。高齢化社会における介護予防の課題や現場での実践事例などについて、活発な議論が展開されました。特に、効果的な多職種連携の手法や対象者へのアプローチ方法について焦点が当てられました。講師の方がアウトリーチすることの重要性を語っておられ、我々から医療機関や福祉施設の外に出て対象者を見つける必要があると感じました。

参加者の方々からは「地域活動についての理解が深まった」、「自身が地域にどのように関わるべきかを考える良い機会になった」との意見を頂きました。研修を通して熱く丁寧に働いていらっしゃる方々が同じ地域にいることを実感できる時間となりました。



報告者：入部春介（医療社団法人涓泉会 山王リハビリ・クリニック）

区東北部区東部ブロック部 江戸川区支部
第46回江戸川区民まつり 活動報告

日時：2024年10月13日（日）

場所：東京都江戸川区 篠崎公園

サポートスタッフ：理学療法士5名

参加者：60名

内容：第47回江戸川区民まつりにおいて、江戸川区熟年施設連絡会と協力し、同連絡会のブースを利用させていただき、理学療法士による体操教室とリハビリ相談会を開催いたしました。当日は晴天であり、炎天下の中にも関わらず、65歳以上の高齢者を中心に約60名の方々にご参加されました。午前と午後の計3回にわたる体操教室とその後にリハビリ相談会を実施いたしました。体操時も皆さん熱心に受けておられ、その後のリハビリ相談でも多くの質問をいただき、非常に充実した時間を過ごすことができました。

地域住民の皆様が抱える身近な悩みやリハビリテーションに対する意見を直接伺うことで、介護予防への関心の高さを改めて実感し、貴重な経験を得ました。また、熟年施設連絡会のスタッフの方々との意見交換を通じて、江戸川区における熟年者の課題についても確認することができました。

今後の江戸川区支部の活動に活かしてまいります。



報告者：芝本 幸俊（スマイリー訪問看護ステーション）

区東北部・区東部ブロック部 江戸川区支部
江戸川区介護労働者に対する介護法指導講座 開催報告

日時：2024年12月11日（水）19:00～21:00

会場：江戸川区 船堀コミュニティ会館

講師：笠原 剛敏 アシスタント：4名

参加者：10名

内容：

江戸川区に勤めている介護労働者の方を対象に、介護法指導講座を開催しました。衣服の着替え（更衣動作）の介入・介護法をテーマに、講義、実技演習を行いました。講義は介護労働者における着替え介入のポイントとQOLを向上させるために配慮すべき点について解説をしました。そして4グループに分かれ、全介助を想定した臥位・座位での上衣・下衣の更衣動作、オムツ交換の実技を通し、部分介助に結びつけるため介入指導を実践しました。参加者の介護現場の現状、各々が工夫している点などを聴取しながら、活発な意見交換を行い、充実した講座が出来ました。多くの参加者から、満足を頂ける意見を多数、頂きました。



報告者：矢島 卓郎（東京臨海病院）

西多摩・南多摩ブロック部 羽村市支部
健康セミナー 開催報告

日時：2024年12月14日（土）14：00～16：00

会場：羽村市産業福祉センター

参加者：一般都民13名、

PT 都士会員スタッフ6名（講師含）

内容：都民を対象に「腰痛セミナー ～動けるって楽しい！今日からできる予防と改善法～」といったテーマで開催し、会場にて講義と実技を行いました。講義では腰痛の発生機序や種類、腰痛増悪を招きやすい姿勢や動作について紹介しました。実技ではセルフチェックを実施後、ストレッチや腹圧を感じながら体操を実施しました。慢性的な腰痛がある方やぎっくり腰の経験がある方が多く参加されていました。

クイズ形式で講義を進めることで参加者も主体的なご様子がみられ、セミナー終盤では質問も多くあがりました。ご自身の特徴を理解されたうえで楽しみながら行える体操を紹介し、参加者の腰痛管理の意識が高まるセミナーとなりました。



報告者：奥野美咲（羽村三慶病院）

西多摩・南多摩ブロック部 多摩市支部
令和6年度多摩市支部研修報告 開催報告

日時：2025年1月11日（土）

場所：東京医療学院大学

講師：林大二郎先生（多摩川病院）

参加者：54名

内容：令和6年度多摩市支部研修を対面にて開催しました。「回復期病院におけるリスク管理の虎の巻～循環器編～」と題して、多摩川病院の林大二郎先生に具体的なリスク管理や運動処方の実際について講義を展開していただきました。回復期病院ではリハビリテーションにかける比率が非常に大きく、今日でも積極的に展開されておりますが、若い会員から「負荷の設定」に対する疑問の声を聴取しておりました。バイタルサインや生化学所見、心電図などから病態を把握し、運動負荷のかけ方について少しでも自信を持って対応できるよう展開いたしました。参加者から、「明日からの臨床に幅広く生かせる内容であった」、「生化学所見やバイタルサインを確認する事でもっと効果的な負荷をかけられることが分かった」など、研修の趣旨が明確に伝わっているような感想を頂いております。

多摩市支部では、若手会員の臨床に生かす「虎の巻」シリーズを毎年実践していますが、次年度以降も会員の声に応えられるよう準備を進めていきたいと考えています。



報告者：生友聖子（東京医療学院大学）

**西多摩・南多摩ブロック部
研修会・症例検討会 開催報告**

日時：2025年1月25日（土）

15：30～18：00（症例検討会）

18：30～20：00（研修会）

会場：東京たま未来メッセ 第1会議室及び第3会議室

講師：山口 育子氏（東京医療学院大学准教授）

テーマ：フレイルを有する内部障害患者への理学療法介入～呼吸機能を含む包括的視点～

内容：2025年1月25日（土）、東京たま未来メッセの会議室にて西多摩・南多摩ブロック研修会・症例検討会を開催した。

症例検討会では、2つの会場を使用し、3分野5演題の発表があり、いずれも時間いっぱいまでフロアから質問が出るなど、活発な議論が交わされていた様子であった。

また研修会では、東京医療学院大学より山口育子先生をお招きし、『フレイルを有する内部障害患者への理学療法介入～呼吸機能を含む包括的視点～』についてご講義いただいた。基礎的な知識から、明日の臨床で使える実践的な知識まで、経験年数に関係なく勉強となる多角度からの内容となっていた。参加者は対面では60名、遠方の方向けにZoomでのライブ中継（1名参加）も行った。研修内容についてはアンケートより、9割の方が分かりやすく、満足頂けた結果となった。



地域活性局 新人オリエンテーション 2025

入場無料

公益社団法人東京都理学療法士協会
**新人オリエンテーション
2025**

対象：2025年に東京都内に就職した理学療法士
参加申込期限：開催日の5日前

①日時：2025年4月10日（木）19：00-20：30
会場：東京たま未来メッセ 第1会議室
京王八王子駅徒歩2分
JR八王子駅徒歩5分

②日時：2025年4月18日（金）19：00-20：30
会場：江東区総合区民センター7階第5会議室
JR総武線亀戸駅より徒歩15分
都営地下鉄新宿線西大島駅より徒歩1分

③日時：2025年5月15日（木）19：00-20：30
会場：帝京平成大学 池袋キャンパス
JR池袋駅徒歩12分

参加申し込み
<https://forms.gle/ha1ppk6BX5kRocQB9>

問い合わせ先
地域活性局 中澤幹夫
reha-nakazawa@tamakyuryo.or.jp

主催：公益社団法人 東京都理学療法士協会

地域活性局 新人オリエンテーション 2025

対象：2025年に東京都内に就職した理学療法士

参加申込期限：開催日の5日前

①日時：2025年4月10日（木）19：00-20：30

会場：東京たま未来メッセ 第1会議室 京王八王子駅徒歩2分 JR八王子駅徒歩5分

②日時：2025年4月18日（金）19：00-20：30

会場：江東区総合区民センター7階第5会議室 JR総武線亀戸駅より徒歩15分
都営地下鉄新宿線西大島駅より徒歩1分

③日時：2025年5月15日（木）19：00-20：30

会場：帝京平成大学 池袋キャンパス JR池袋駅徒歩12分

問い合わせ先 地域活性局 中澤幹夫 reha-nakazawa@tamakyuryo.or.jp

理学療法フェスタ 2024 活動報告

日 時：2024年11月24日（日）

会場：イオンモール日の出 イベントスペース

運営スタッフ（理学療法士）：12名

概 要：

本年はイオンモール日の出2階のイベントスペースを利用し、理学療法フェスタ2024を多くの東京都理学療法士協会の方々のご協力を頂きながら無事に行うことができました。

開催内容といたしましては、昨年に引き続き体力・筋力測定を行う「測定ブース」と健康相談・理学療法士の進路相談等を行う「相談ブース」を設置し、同時に本協会のノベルティ配布を行いました。

普段測定することのない身体機能の測定に皆様興味を持ってくださり、ハンドヘルドダイナモメーターを使用した膝伸展筋力測定を積極的に行う方が多く見られました。測定結果を全国平均値と比較して自身の身体年齢を知ること、日常的な運動方法のご質問をしてくださる方が多くいらっしゃいました。

他にも理学療法士を目指している高校生の進路相談もあり、毎年実施しているオンライン相談会などの本協会の活動も紹介することができました。

本年は300名以上の地域の方々がご来場くださり、大変ご好評いただきました。今回の活動を通して理学療法士への興味関心を深めていただけたとともに、地域への健康増進活動を行えたと考えています。

東京都民の皆様にとって理学療法士の力が一助となる様、今後も邁進してまいります。



報告者：外宣部 板井恵輔 小川大揮（緑成会病院）

エスカレーターエチケット、英語版キーホルダー作成報告

「止まって乗ろうエスカレーター」活動の一つとしてキーホルダーの作成・頒布をしてきました。そして新しい試みとして英語版を作り始めています。手始めに外国人の方々は日本のエスカレーターの事情をどう思っているのかを聴取し、外国人の方々の心に刺さる「ワード探し」をしました。5か国の方（表1）に自国でのエスカレーター事情、日本の現状をどう思うか、この現状を変えていくにはどうしたらよいと思うかを聞いてみました。（表2）

結果、全世界的（？）に片側空けは行われていること、エスカレーターを歩いていること、エスカレーターで事故があること、理由があって片側にしか乗れない人がいることを知らないことがわかりました。また、現代の慣習を変えていくためには、子ども達の力を信じて活動を続けていくことを後押ししてくれるアンケート結果でした。この結果をもとに英語版キーホルダーを使って「止ま乗る」を日本のみならず世界に向けて発信していきたいと考えています。

表2の内容

1. 日本のこのような状況を知っていましたか？
 2. あなたの国では片側空けをしていますか？
 3. あなたの国ではエスカレーターで歩いていますか？
 4. 日本であなたはエスカレーターで歩いていますか？
 5. こういったことが起きていたことを知っていましたか？
- *2・4モンゴルにエスカレーターはデパート位にしかない
5全員事故については知っている

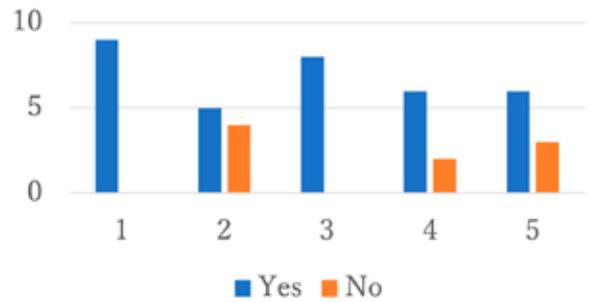
1.出身国

表1



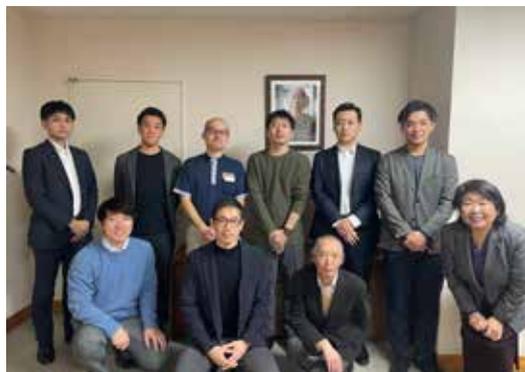
■ チェコ ■ アメリカ ■ イギリス
■ 中国 ■ モンゴル

結果



企業・団体や学識者との連携（共同事業）

エスカレーターの片側空けによる利用のしづらさや、乗降時の転倒事故などの社会課題に対して、同委員会では、数年来、企業・団体や学識者との連携を図っております。令和6年12月には、医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院様に訪問し、院内にあるエスカレーターでの乗降訓練の様子を拝見させていただきました。



参加者：

文京学院大学経営学部
新田都志子教授
江戸川大学
斗鬼 正一名誉教授
株式会社
UD エスカレーター様
一般社団法人 Ayumi 様
メディア各社

令和7年上半期には、エスカレーターのより安全な乗降に関する共同研究を開始する予定となっており、社会への発信を続けて参ります。*ご協力頂いた初台リハビリテーション病院の皆さまに、心より感謝申し上げます。

報告者：小林潤（辻内科循環器科歯科クリニック）

<エスカレーターマナーアップ推進委員会> 各種お問い合わせ (Mail) : esca.pttokyo@gmail.com

産後リハビリテーション講座 開催報告

健康増進部の継続事業として今年もNPOとの共催にて「産後リハビリテーション講座」を東村山市にて開催いたしました。今回は初めてパパさんにも参加して頂くプログラムで赤ちゃんの抱き方や姿勢など専門職である理学療法士ならではの講義、実技に新米パパさん達も真剣な面持ちで取り組んでいたのが大変印象的でした。女性の社会進出や働き方改革が更に進む中、男性の育児参加は今や当たり前であり、このような状況の中、我々理学療法士が社会に貢献できる場もまだまだ多くあるように感じます。



残念ながら今のところ「産後リハビリテーション」は診療報酬としては認められていませんが、専門性を活かした活動を継続する中で有用性が認められる時代も来るかと思えます。

また、このような活動が各団体や他職種との連携の元、各地域で展開されていくことを期待しております。



【活動報告】 杉並区ユニバーサルタイム

- ・ 日程：2024年11月27日、12月21日、2025年1月8日、1月29日(計4回)
- ・ 場所：荻窪体育館、上井草スポーツセンター
- ・ 参加者：延べ69名
- ・ 理学療法士；延べ14名

スポーツ支援・推進部では引き続き杉並区ユニバーサルタイムをサポートさせていただいております。ユニバーサルタイムでは障がいを持った方でも安心して楽しく運動が継続できるよう、理学療法士が参加者と一緒に運動を行ったり参加者へ運動やストレッチのアドバイスを行なっております。

参加者に運動へ興味を持っていただくため、音楽に合わせたバランスボールトレーニングメニューを行う等、病院の臨床では経験が難しいものにも挑戦する機会もございました。

その場は大変盛り上がり、普段のバランスボールメニューとはまた違った楽しみ方を提供できたと思います。

今後も参加者へ運動するきっかけを作れるよう、引き続きサポートしていきたいと考えております。

今回ご協力いただいた先生方、誠にありがとうございました。

今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部 宮川 大(武蔵野みどり診療所)

【活動報告】江戸川区パラスポーツ初心者教室サポート

- ・日程：2024年12月14日、2025年1月11日、2月8日、
- ・会場：江戸川区葛西区民館、小岩アーバンプラザ、東部区民館、中平井コミュニティ会館、
- ・参加者総数：延べ39名 ・派遣者総数：延べ23名

2024年度は江戸川区内の4か所で各全5回・合計20回「パラスポーツ初心者教室」を開催されており、障害がある方や運動実施に不安がある方のために、ストレッチや体操、筋力トレーニング、パラスポーツ体験を行う教室のサポート活動を行いましたのでご報告いたします。

講師の先生が提供するマイティポールというノルディックウォークのようなポールと、ダンベルボールボールレッジという500gの柔らかいボールを使用したエクササイズ、風船を使用したエクササイズ、ポッチャなどの運動を、参加者の方々が無理なく安全に行えるようにサポートいたしました。

また、障害があっても楽しくスポーツができる可能性やモチベーションを引き出せるように、一人ひとり状態に合わせて無理なく運動が行えるように、難しい動きのみをサポートする事で「自分で動かしている」という認識と充実感を持って頂くことができたのではないかと思います。

今後もこのような機会が少しずつ広がり、色々な年代のたくさんの皆様が、楽しく笑顔で運動できることで、充実した生活を送ることができるようサポート活動を続けていきたいと思っております。今回ご協力下さった皆様に感謝いたします。



報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部 鈴木真治（森山ケアセンター）

【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

日時：2024年11月23日(土)、12月7日(土)、12月21日(土) 15:00～18:00

会場：青山学院大学体育館

参加者：延べ47名

理学療法士：14名



青学フェンシングチームは昨年の全日本学生フェンシング選手権が終わり、新たな新チームとなり始動しました。

新チームになり、改めてチームの目標や種目別の目標、個人目標を設定し次の大会へ動き始めています。目標を設定するにあたり個々の実力やモチベーションの違いもあり、

チーム全体で同じ方向に向かって行くにあたり悩みの相談を受けることもありました。

その際にはフィジカルトレーニングの結果や個々の身体機能評価を行い、どのようなトレーニングを行うのが良いのか、どのように目標を設定すれば良いのかなど選手に歩み寄り一緒に考えて行きました。

一緒に考えて行くことで、選手・トレーナーの目標が統一され目標をブレさずに進んで行く事ができ、我々もチームの一員として力になれていることを実感出来ます。

このような経験は普段の臨床ではなかなか経験することが出来ず大変勉強になります。

次の大会まではまだ時間がありますので、選手の怪我予防やパフォーマンスアップの力になり、良い成績を出せるようにサポートして行きたいと思います。



報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部 西條攻 ((株) ブルーリボン)

【活動報告】第9回パラスポーツフェスタえどがわサポート

- ・日時：2024年11月16日
- ・場所：江戸川区スポーツセンター
- ・参加者：160名
- ・参加理学療法士：5名
- ・誘導、サポート件数、相談：約20件



昨年度に引き続き、江戸川区が主催する「パラスポーツフェスタえどがわ」に参加し、障害のある方のサポートを行いました。昨年度まではどのような方でも参加が可能でしたが、今年度からは障がいのある方と付き添いの方の参加のみとなっており、より多くの方々にパラスポーツの魅力を体験していただく機会となりました。

理学療法士として、会場内での移動支援や誘導を行うとともに、障害がある中でも取り組める運動やスポーツに関する相談対応、江戸川区で実施されている他のスポーツ教室への案内などを担当しました。トランポリンやボッチャといったスポーツを体験された方々からは、「自分にもこんな運動ができるとは思わなかった」「家族と一緒に体を動かして楽しかった」といった喜びの声を多くいただきました。また、参加者同士がスポーツを通じてつながりを持ち、新たな交流が生まれる場面も見られました。

本イベントを通じて、障害の有無に関わらず、誰もがスポーツを楽しみ、社会とのつながりを持つことの大切さを改めて実感しました。今後も理学療法士として、地域における社会参加の促進や共生社会の実現に向けた支援を続けてまいります。



パラスポーツフェスタえどがわ

令和6年11月16日

対象：障害のある方とその付き添いの方
(障害種別は問いません！)

時間：10:00～16:00
(休館12:00～13:00)

場所：江戸川区スポーツセンター
(江戸区4丁目2番20号)

※当日は要予約をお待ちください

競技は全部で10競技!!

予約なしで体験OK!

体験競技

- ボッチャ
- トランポリン
- フライングディスク
- ぬいすフェンシング

大規模競技

- 射撃(ビームライフル)
- ぬいすスポーツ

大規模競技・体験

- パワーリフティング

事前に予約して体験しよう!

インターネット(先着順)での受付となります。

競技名	体験時間	対象人数	料金
第1回	10:30～11:15	東京都立荏原病院	100円
第2回	11:45～12:30	○中野区	100円
第3回	13:30～14:15	葛飾区	100円
第4回	14:45～15:30	足立区	100円

※電話でも申込みできます。お申し込みの問合せ先へご連絡ください。

その他のブース

- エドゴワ1号館
- エドゴワ2号館

東京都立荏原病院 理学療法士相談コーナー

報告者：嶺岸 洸希 (東京都立荏原病院)

【活動報告】フェンシング大会会場サポート

- ・日 時：2024年11月30日、12月28日、29日
2025年1月3日、18日、19日（延べ6日間）
- ・場 所：駒沢オリンピック公園屋内球技場、世田谷区大蔵第二運動場体育館、港区スポーツセンター、
江戸川区総合体育館
- ・参加者：1060名
- ・派遣者数：12名

本年度の東京都フェンシング協会様主催の競技大会は全日程を終了し、関東学生フェンシング連盟様、港区フェンシング協会様、江戸川区フェンシング協会様、東京都高体連フェンシング専門部様からのご依頼でサポート活動を行いました。小学生からベテラン、ビギナーフェンサーまで地域におけるフェンシング大会までサポートさせて頂くことは非常に貴重な経験となりました。

また2月14日には本年度の活動総括としてフェンシングサポート報告会をTKP 渋谷ガーデンシティにて行いました。今回は17名の方に参加して頂きました。

東京都フェンシング協会専務理事 辻村眞一郎先生、JR 東京総合病院医師 中山修一先生、スポーツ局外部委員弁護士 阿部新治郎先生、多賀啓先生をお招きし、本年度の外傷・障害報告や研究発表、理学療法士がスポーツの現場で活動を行うための留意点や今後の活動についてのディスカッションが活発に行われました。

毎年報告会を開催しディスカッションを繰り返すことで外傷・障害件数も減少しており、フェンシング大会での現場活動が非常にスムーズになっていると感じます。

来年度もフェンシングサポートを宜しくお願い致します。



報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工・関節脊椎クリニック）

【活動報告】「2024 年度スポーツ理学療法認定カリキュラム」について

[日時 / 形式] 2024/10/5 WEB 研修会

2024/10/6 WEB 研修会

2024/10/13 WEB 研修会

2024/10/27 WEB 研修会

2024/12/1 対面研修会

(日本大学文理学部キャンパス)

[講師]

WEB 研修会：板倉尚子先生、平野佳代子先生、宮森隆行先生、渡邊祐介先生、鈴木章先生、笹代純平先生、中山修一先生、生井真樹先生、村本勇貴先生、相澤純也先生、山弘樹先生、千葉慎一先生、瀧口耕平先生

対面研修会：笹代純平先生、佐保泰明先生、宮森隆行先生、小山貴之先生、鈴木享之先生

[参加者] 日本理学療法士協会会員 3 名、東京都理学療法士協会会員 1 名

[内容]

スポーツ理学療法認定カリキュラムを開催させて頂きましたので、ご報告させていただきます。

東京都理学療法士協会スポーツ局では、日本理学療法士協会 新生涯学習制度における認定理学療法士（スポーツ）臨床認定カリキュラムの教育機関として認定されています。

WEB 研修会 4 日間+対面研修会 1 日間の全 5 日間の研修会を企画させて頂きました。

内容は、必修・選択科目で計 23 科目あり、スポーツ理学療法の歴史から選手のコンディショニングを向上させるためのハイパフォーマンストレーニング、現場で使用するテーピングなど実技を交えて、日々の現場で活かせる内容となっております。

今回、講師をして頂いた先生方、対面研修会で会場をご提供いただきました日本大学の小山先生にこの場をお借りして、心より感謝致します。

次年度もスポーツ理学療法認定研修会を開催させていただきますので、スポーツ現場に出られている先生方は、奮ってご参加頂ければと思います。



写真：対面研修会（宮森隆行先生）

佐藤正裕先生、杉



写真：WEB 研修会（平野佳代子先生）

報告者：スポーツ局 人材育成部 部長 岩山 睦（浮間中央病院）

【研修会報告】学校保健研修会～認定スクールトレーナー制度と理学療法士に求められていること～

開催日時：2025年1月13日（月） 9：00～12：20（対面開催）

会 場：TKP 新宿西口カンファレンスセンター 9E

参加者数：45名

講 師：板倉尚子（東京都理学療法士協会スポーツ局）

「学校保健領域での理学療法士の役割～スクールトレーナー制度とは～」

角杉美恵子 氏（有明教育芸術短期大学）「学校教育と児童生徒の理解」

鈴木 篤 氏（府中市教育委員会）「教育現場で理学療法士に求めること」

内 容：

今回の研修会は、昨年からスタートした認定スクールトレーナー制度の概要と背景、学校現場の実情、そして実際の教育現場からのニーズに関する講演という構成でした。講演では実際に学校現場で起こっていること、また教育現場において生じている課題を具体的にご提示いただき、学校現場において理学療法士が貢献できることがまだまだあるのではないかと多くのアイデアが浮かびました。一方で講義やディスカッションを通じて学校環境特有の難しさ、法制度など、理学療法士が学校という環境で活動するうえでの課題が多く残されているとも感じました。

私は認定スクールトレーナー制度の第1期生として資格を取得し、現在は都土会の仲間とともに都内各地の学校のニーズに応えるかたちで活動をさせていただいています。実際に活動している中で、教育現場において障害予防、運動指導、あるいは運動の促進など、様々なニーズが眠っている状況であることを感じています。今後もこのような研修会などを通じ、学校現場で関わる理学療法士の仲間が増えることを願っております。



報告者：門馬博（杏林大学）

【活動報告】 国立市立国立第八小学校での姿勢授業

開催日時：2025年2月8日（土） 11：15～12：00

会場：国立市立国立第八小学校 多目的室

対象：小学5年生

参加者数：46名 ※他に保護者の参観あり

講師：齋藤弘樹（大橋病院）

アシスタント：渡邊祐介・木村豪志・大槻俊介・
蓮池海生

内容：子どもの健康・安全部は、文部科学省管轄の土曜学習応援団において「学校保健教育・保健指導／アセスメントにもとづいた正しい姿勢と体づくり」の登録をしています。今回は国立市立国立第八小学校からの依頼を受け、小学5年生を対象に実施しました。当日は、保護者の参観も行われました。

内容は、姿勢がもたらす良い影響・悪い影響について

の話、姿勢とケガとの関連性の話をし、実技として、事前に児童達にチェックをしてきてもらった姿勢評価をもとに、再評価をしながら姿勢タイプ別の運動指導を行いました。

参加した児童からは、「姿勢がケガにも関わることを知れて良かった」「自分が思っていた姿勢と違うことに気がつけた」などの感想をもらうことが出来ました。児童の中には、既に痛みを抱えている児童もいることが分かりました。

今後も事業活動を通して、児童等の健康維持・促進に向けた取り組みを行っていきたいと思います。



報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

【活動報告】江東区立深川第八中学校への出張授業「アセスメントにもとづいた正しい姿勢と体づくり」

開催日時：2024年12月12日（木） 13:30～14:20

会場：江東区立深川第八中学校 体育館

対象：中学1年生

参加者数：136名

講師：齋藤弘樹

サポート：鈴木享之、片見奈々子、久木田詩穂実、国分空以、門馬博、小泉遥花、神田菜緒、高橋悠輔、渡邊祐介

内容：

江東区立深川第八中学校よりご依頼いただき、中学1年生を対象に「姿勢と体づくり：理想の姿勢とは」をテーマとした出張授業を行いました。今回は講演と、参加者の姿勢をタイプ別に分けての特徴の説明・運動指導の二部構成で行いました。

第一部の講演では、齋藤弘樹先生から「理想の姿勢」についてお話しいただき、なぜ良い姿勢が重要なのか、姿勢と運動器疾患にはどのような関係があるのかについて生徒の皆さんに考えていただきました。第二部の運動指導では事前に深川第八中学校の先生方にご協力いただき、参加者それぞれの姿勢をケンダルの分類に基づいてあらかじめ5つのタイプに分類していただきました。そのうえで理学療法士が再度参加者の姿勢について再チェックを行い、それぞれの姿勢タイプの特徴に合わせた運動指導を行いました。

今回の活動は1コマの授業時間（50分）という中で講演、評価、運動指導という流れを計画しましたが、事前にアンケートによって姿勢タイプの分類を行っていただいたことにより参加者それぞれにより適した運動指導ができました。1コマの出張授業ではありましたが、小学生・中学生を対象とした姿勢指導のニーズが高まっており、今後もよりわかりやすく、そして参加者の興味関心をより高めることができる関わりの工夫を検討していきたいと思っております。



報告者：門馬博（杏林大学）

【活動報告】豊島区立朝日小学校 学校保健委員会
 一年齢に合った運動能力・体力を身につけるための体幹トレーニング

開催日時：2025年1月18日（土） 11：30～12：20

会場：豊島区立朝日小学校 体育館

対象：教諭・保護者

参加者数：教諭 22名、保護者 14名

講師：渡邊祐介（東京都理学療法士協会スポーツ局 子どもの健康・安全部部長）

参加スタッフ：齋藤弘樹・片見奈々子・久木田詩穂実・国分空以・藤井佳奈

内容：

今回の活動では年齢に合った運動能力についての講義と体幹トレーニングの実技を実施しました。講義では1つ目に「運動習慣の二極化」について、児童生徒の運動器の健康課題としては体力低下や運動に対する二極化が指摘されていることと、体を思う通りに動かせないことや肥満児が増加して将来の生活習慣病リスクが高まることなどを説明しました。そして2つ目に「子ども達の運動能力」について、スキャモンの発達曲線や子どもの発達・発育段階に合わせたトレーニングの方向性を図で示して、年齢別の運動方法などを紹介しました。また、動作の発達段階として参加スタッフによる“走る・跳ぶ・投げる”動作のパターンをいくつか実演したところ、参加者の中では「確かにこんな子いる。」「私もこのやり方かもしれない。」などといった反応がありました。実技では運動器の健康・日本協会のHPでも記載されている体幹トレーニングの5種類を説明し、実際にマットの上で一緒にトレーニングをしました。参加者の8割程の方が実技に参加し、出来ないポージングがあるとスタッフによる個人指導を行い、「理学療法」に理解を示してくれる場面がたくさんありました。多くの参加者が積極的に参加し、終わった時には体を動かした達成感で笑顔と大きな拍手が起こりました。質疑応答でも、教員だという保護者から「今回の活動はどのように開催されているのか？」と聞かれ、学校の教諭からは「今後も依頼したい。」といった要望があり、スクールトレーナー活動の需要の高さを感じました。



報告者：久木田詩穂実（総合東京病院）

【活動報告】「2024 年度東京保育士会 子どもの足（姿勢と動き）どの様に見ますか」

日 時：2025 年 11 月 17 日（日） 10:00～15:00

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

対 象：東京保育士会 保健部会会員（保育士、看護師等） 約 45 名

講 師：鈴木 享之（長汐病院）

アシスタント：片見 奈々子（まつおか整形外科クリニック）

概 要：

昨年に引き続き東京保育士会様より、「秋の研修会」における講話依頼があったため「子どもの足（姿勢と動き）どの様に見ますか？」との題にて講話と実技指導を行った。

内 容：

- ・ 幼児期の子どもの身体の特徴
- ・ 足と靴
- ・ 姿勢とストレッチング
- ・ あそび
- ・ 質疑応答

報 告：

「運動の二極化」や「子どもにおおりの外傷・障害」などの講話に続き、神経発達の盛んな子ども達に必要な動きや遊び、そして着地姿勢を例えに子どものケガの予防等、参加者と共に実際に身体を動かして行った。理学療法士として姿勢や動作をどの様なポイントにて見ているか、動きによる姿勢の変化や注意点を実際に自分の体を使ったり他者の体を観察したりすると「明日から園での子ども達姿勢の見方が変わります」「さっそく明日から今日の遊びを取り入れてみようと思います」等の声を聴くことが出来ました。汗をかくほど、皆様が熱心に聴講して下さい、実りのある会となりました。引き続き、子どもの未来をピカピカにする活動に邁進していきたいと思っております。



報告者：鈴木 享之（長汐病院）

【活動報告】江東区立第五砂町小学校 学校保健委員会

開催日時：2025年1月25日（土） 9：30～10：20

会場：江東区立第五砂町小学校

対象：保護者・教員

参加者数：教員3名、保護者40名

講師：森本 孝則（安全教育株式会社）

参加スタッフ：鈴木享之、嶺岸洸希、早友綾子

内容：

江東区立第五砂町小学校学校保健委員会で講演をして参りました。

当日は、土曜日の授業参観の一コマということで会場いっぱい保護者の方がご参加下さいました。

内容としては、①現代の健康課題について、②姿勢と怪我の関連性について、③良い姿勢と健康を保つため

にという項目について、約40分の講演をさせて頂きました。最後は、時間を超過する程に沢山の質問を頂き改めて子どもの健康に対する関心の高さを感じました。後日、頂きましたアンケートには、「分かりやすく、あっという間だった。」「ぜひ子どもに直接伝えて欲しい。」等、嬉しいコメントを沢山頂きました。中には、「親自身の姿勢も気を付けます。」とコメントがあり、子供の健康のためには親が見本となる事が大切だと常々感じていたので、改めて老若男女関わらず東京から日本中が健康になってもらえればなと感じました。

このような貴重な機会を下さいました江東区立第五砂町小学校の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



報告者：森本孝則（安全教育株式会社）

令和6年度 診療報酬改定に関する影響調査報告

東京都理学療法士協会会員の所属する全医療施設を対象に「令和6年度診療報酬改定に関する影響調査」を実施させていただきました。以下に詳細を報告致します。

調査期間：2024年10月21日～11月22日

回答方法：Googleフォームを利用したアンケート形式

広報：東京都理学療法士協会ホームページ掲載、FAX通信、ブロック・支部へメール配信

回答数：129施設 回答率：23.5% (回答数/FAX送信完了施設数から算出)

1. 回答者情報

-1. 所属ブロック (回答施設数)

区中央部・区南部・島しょ	16
区西南部・区西部	29
区西北部	19
区東北部・区東部	23
西多摩・南多摩	21
北多摩	20

-2. 所属施設での立場 (施設数割合%)

施設長	0.8
部長・課(科)長	55.5
係長	12.5
主任	24.2
チームリーダー (などの管理職)	2.3
一般職員	4.7

-3. 経験年数 (施設数割合%)

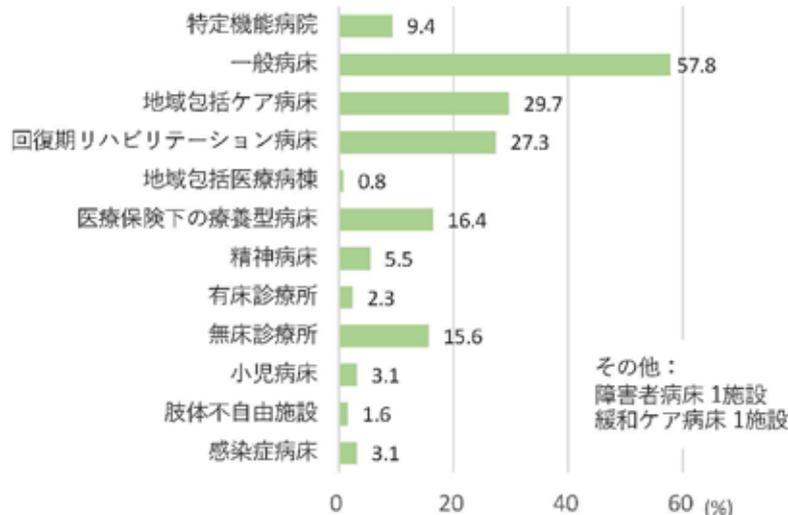
1～5年目	1.6
6～10年目	6.3
11～15年目	14.1
16～20年目	33.6
21～25年目	27.3
26～30年目	10.2
31年目以上	7.0

2. 回答施設の基本情報

-1. 病床数

病床数	施設数割合(%)
無床	15.6
1～99床	16.4
100～399床	50.0
400～699床	13.3
700～999床	1.6
1000床以上	3.1

-2. 病院機能 (施設数割合)



-3. 施設基準 (施設数割合)

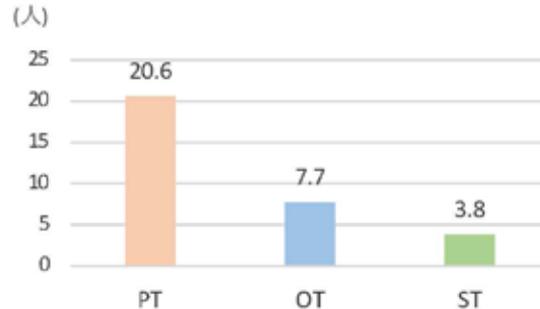


<その他の施設基準>
がん32.8%、
難病0.8%、認知症0.8%

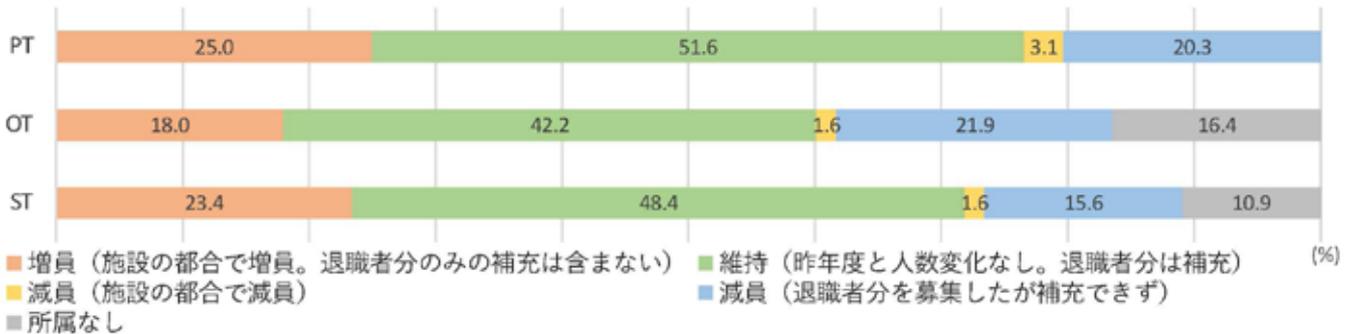
3. リハスタッフ数

- ・常勤の平均スタッフ数は例年と同程度であった。スタッフの人員動向では、PTの増員施設が昨年度調査(40%)より25%と減少、減員(施設の都合、退職者分を募集したが補充できず)施設が増加していた。
- ・「採用が難しくなっている」「他職種への転職が増えている」との意見があった。

-1. スタッフ数平均 (人)

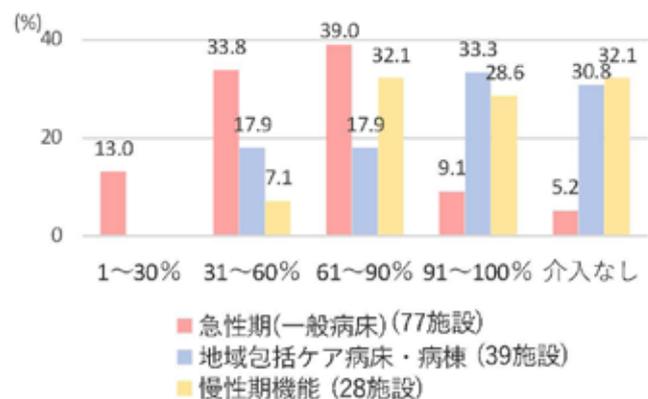
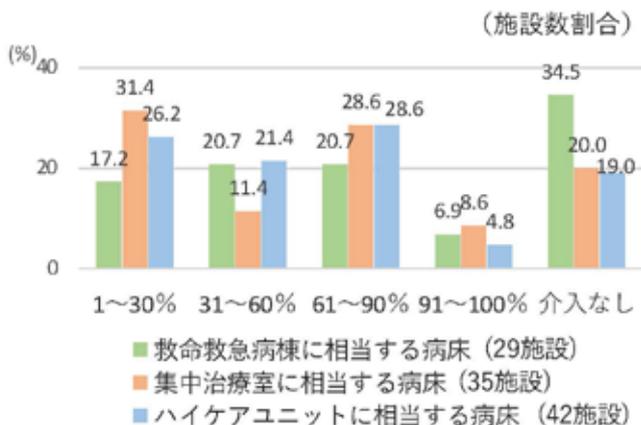


-2. スタッフ人員動向 昨年比 (施設数割合)



4. 病期機能別リハ処方割合

- ・高度急性期病床のリハ処方割合は施設により異なっていた。
- ・急性期病床は例年と大きな変化はなかったが、地域包括ケア病床・病棟/慢性期機能では「介入なし」の施設が3割と増加していた。改定により入院料の評価体系見直しなどが実施された影響が考えられる。



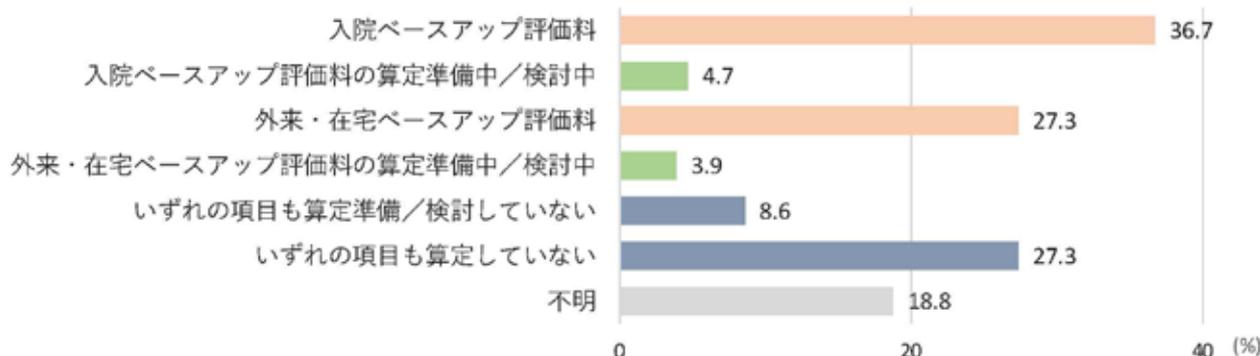
その他の機能を有する病床のリハ処方割合

機能	処方割合	施設数	機能	処方割合	施設数
感染症	2%	1	緩和ケア	1~25%	3
	30%	1		50~60%	3
	50%	2	小児	1~10%	5
10%	1	40%		1	
精神科病棟			地域包括医療病棟	61~90%	1

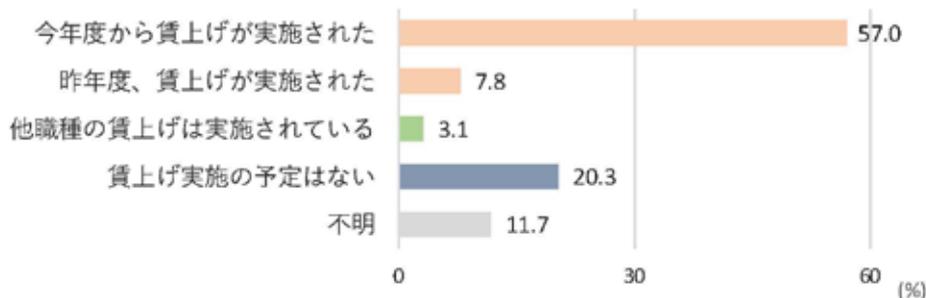
5. 外来・在宅ベースアップ評価料、入院ベースアップ評価料

・リハビリテーション専門職団体協議会が実施した「リハビリテーション専門職の処遇改善に関する実態調査」の結果と概ね同等の結果であった。
 ・今回の調査では賃上げの割合等は問わなかった。今後も賃金の底上げに向けた対策が実施されることを期待し、次回以降も調査を継続していく。

－1. 算定状況（複数選択可、施設数割合）



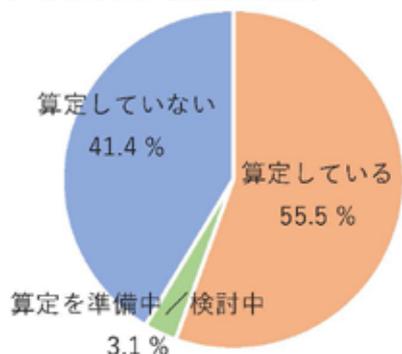
－2. リハ専門職の賃上げ実施状況（施設数割合）



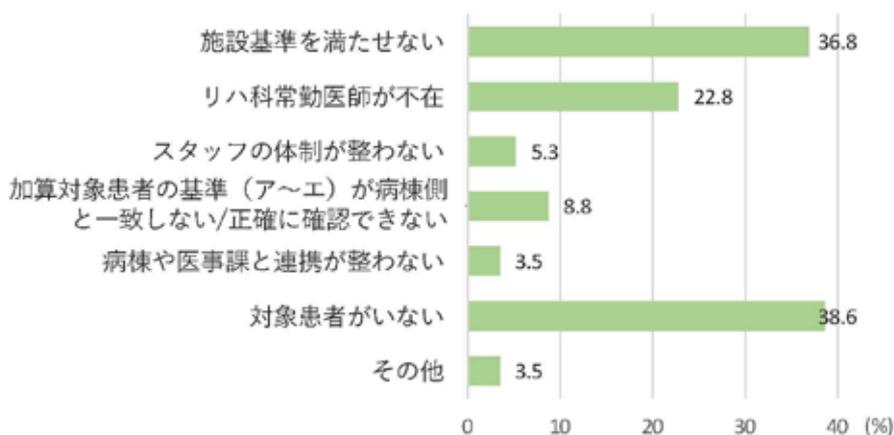
6. 急性期リハビリテーション加算

・新設された「急性期リハビリテーション加算」を算定している施設は55.5%であった。算定していない/できない施設からは、施設基準を満たせない、リハ科常勤医師が不在が上位の理由として上がった。「早期リハビリテーション加算」の評価見直しの影響があったと回答した3割ほどの施設からは、収益面の影響が多かった。
 ・日曜・祝日の急性期リハビリテーションの介入状況は、全体の半数の施設でのみ実施されていた。ご意見の中では「業務体制」への課題や問題点が多く聞かれ、急性期分野に関わるリハ専門職のさらなる増加が必要とされる中、設問2「リハスタッフ数」の結果も踏まえ、スタッフ増員や業務体制変更に難渋している施設があることがわかった。

－1. 算定状況（施設数割合）



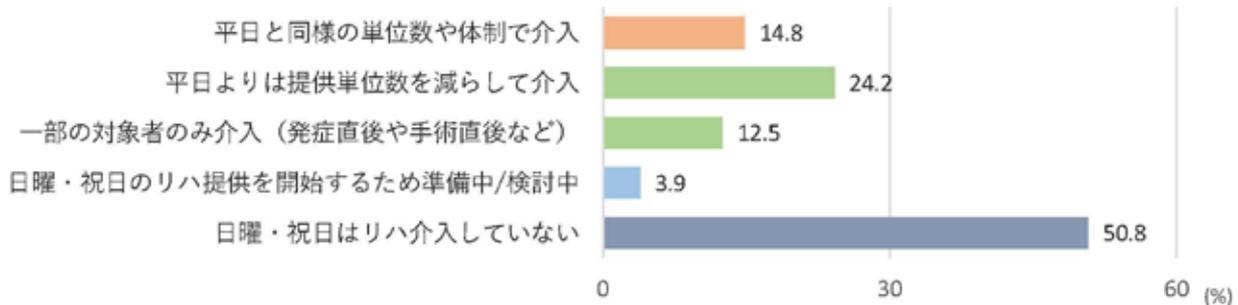
－2. 算定していない/できない理由（施設数割合） 対象：57施設



－3. 「急性期リハビリテーション加算」が新設、「早期リハビリテーション加算」の評価の見直しの影響（記述を集計）

影響あり(40施設) 31.3%	【影響ありと回答した施設】	【影響なしと回答した施設】
影響なし(86施設) 67.2%	業務管理 7件	収益（増収） 8件
その他（6施設） 4.7%	評価体制 3件	制度に対する意見 2件
	収益（減収） 24件	
	制度に対する意見 2件	

－4. 日曜・祝日の急性期リハビリテーション介入状況（複数選択、施設数割合）



－5. 日曜・祝日の急性期リハビリテーション介入 今後の課題や問題点等（記述を集計）

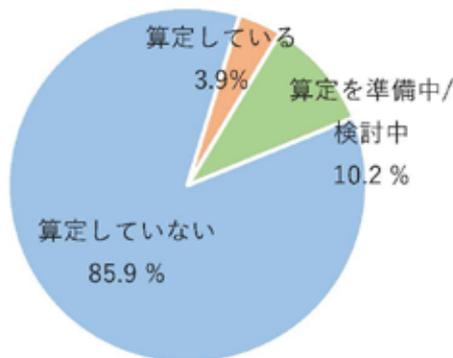
施設のリハ介入状況 (件数)	人員不足	業務体制の課題	制度に対する意見
一部の対象者のみ介入（発症直後や手術直後など）	1	5	0
平日と同様の単位数や体制で介入	0	3	1
平日よりは提供単位数を減らして介入	4	11	1
日曜・祝日のリハ提供を開始するため準備中/検討中	1	2	0
日曜・祝日はリハ介入していない	5	11	2

※「業務体制」と集計した施設の回答には「人員不足」「業務体制の変更困難」とのコメントも多かった

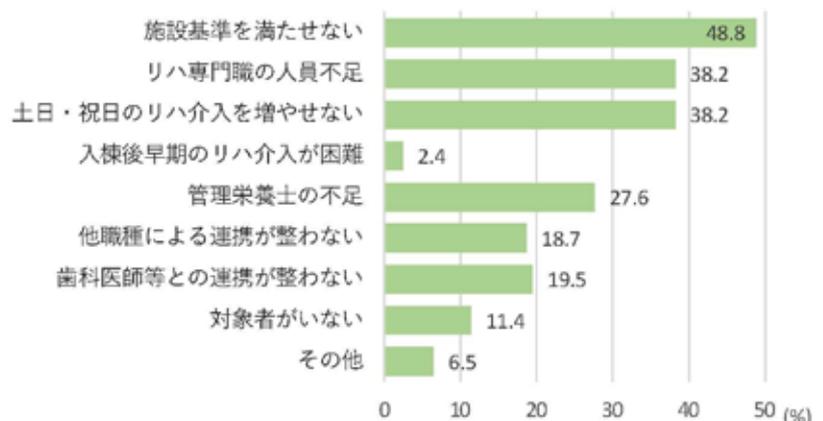
7. リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算

・調査時点（関東厚生局、11月1日時点）では、都内11施設で施設基準の認可があり、回答した算定施設は3.9%（5施設）だった。全国的には増加傾向にあるよう。算定していない/できない理由としては、「施設基準を満たせない」、ついで「リハ専門職の人員不足」「土日・祝日のリハ介入を増やせい」との意見が多かった。多職種による取り組みや土日祝日のリハ介入は普及が望まれることから、今後の動向を追っていく。

－1. 算定状況（施設数割合）



－2. 算定していない/できない理由（施設数割合）
対象：123施設



－ 3. 算定施設 算定に際し、業務体制の変更や新たな取組み、工夫した点など (5施設 回答原文)

①平日/日祝の単位管理表、②365体制および、日曜日勤務者増員、③病棟との連携、カンファレンス

インボディの体組成計を利用して、患者の身体の経過を共有している。

休日出勤の実施、早期リハ依頼の体制作り、手術前入院を前日に変えてもらった

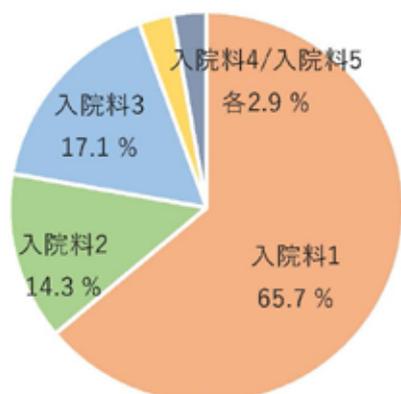
専従者を配置することに関して、単位数など色々と制約もありネガティブな側面も、あるから、病棟専従者として早期に評価介入ができる事で、在日数短縮に寄与する可能性がある点は良い点と捉えています。

病棟で月から金曜で朝入院患者カンファを行っている

8. 回復期リハビリテーション病棟 (対象：35施設)

- ・診療報酬改定による影響ご意見 (記述回答) では、選択肢回答と同様に運動器リハビリテーション料の算定数見直しに関するものが多く、体制強化加算の廃止と合わせて減収となったなどがあがっていた。また、定期的なFIM測定により業務が増えたとの意見もあった。
- ・運動器リハビリテーション料算定の見直しにより、減収見込みの施設は45.7%であり、対策 (記述回答) としては、運動器疾患患者の入院数を減らしている施設が多く、入院日数の短縮、一般病棟や訪問分野へのスタッフの配置転換などを実施しているという施設もあった。

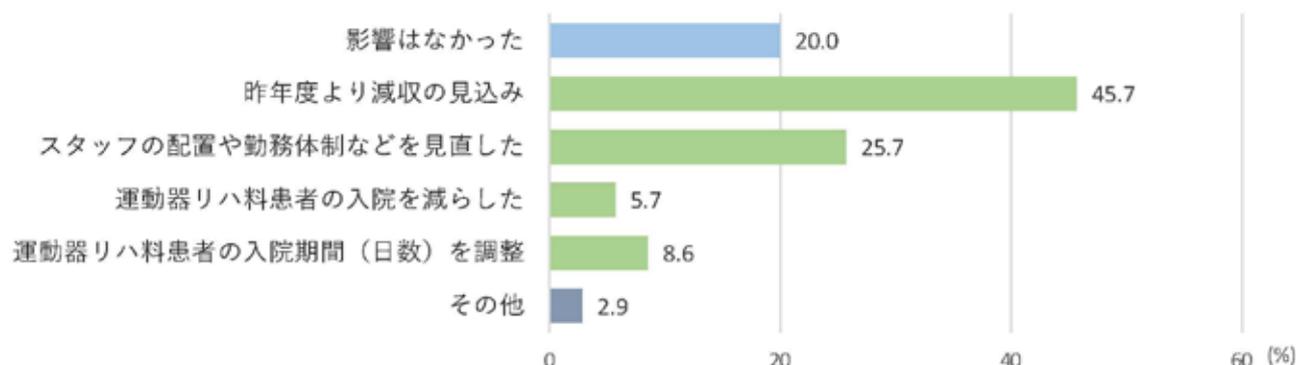
－ 1. 施設基準 (施設数割合)



－ 2. 診療報酬改定による影響 (複数回答、施設数割合)

	(%)
運動器リハビリテーション料の算定単位数の見直し	74.3
定期的(2週間に1回以上)なFIM測定	57.1
体制強化加算 1.2 の廃止	51.4
GILM基準による栄養評価の要件化	40.0
入院料1・3FIM測定に関する研修会を年1回以上開催	28.6
入院料 (点数) の引き上げ	17.1
入院料1・2口腔状態に係る課題を認めた場合には適切な口腔ケアを提供、必要に応じて歯科医療機関への受診を促す	14.3
入院料1・2専従の社会福祉士等の配置	8.6
影響なし	11.4

－ 3a. 「運動器リハビリテーション料の算定単位数の見直し」による影響 (複数回答、施設数割合)



－ 3b. 上記により減収となった施設へ 減収分を補う工夫や取組み (記述回答をAIを用いて集計)

記述回答 (15件) の要約と頻出キーワード

- ・運動器疾患患者の入院を減らし、脳血管疾患患者の入院を増やしている
- ・入院期間の短縮、早期退院の促進
- ・急性期一般病棟、外来、訪問へのスタッフ配置転換、介入頻度の増加

9. 地域包括ケア病棟（対象：39施設）

- ・診療報酬改定では入院料の評価について、入院期間に応じた評価体系の見直しが行われた。
- ・「影響なし」の施設は64.1%であったが、影響があった施設（記述回答）からは、「入院期間の短縮や退院調整が大変となった」、「減算により減収となった」との意見があった。

今年度診療報酬改定による影響 影響なし 25施設 (64.1%)

記述回答（14件）の要約と頻出キーワード（AIを使用集計）

- ・入院期間の短縮（早期退院）、退院調整などの対応大変
- ・入院料の見直しにより減収

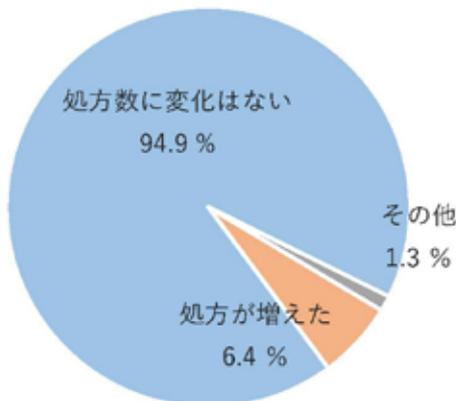
10. 地域包括医療病棟

- ・今年度改定で新設となった地域包括医療病棟（入院料）だが、調査時点（関東厚生局、11月1日時点）では、都内で14施設が施設基準の認可を受けている。
- ・本調査では、認可申請に関するノウハウ、申請を検討する施設へは課題や問題点を伺った。
- ・7件のご意見（記述回答を集計）では、「土日祝日の人員確保が課題」、「離職を出さないために休日出勤手当を検討」、「施設基準が厳しく認可申請を断念した」との意見があった。
- ・今後は認可施設への調査や検討を進める施設への問題点の把握などに努めていきたい。

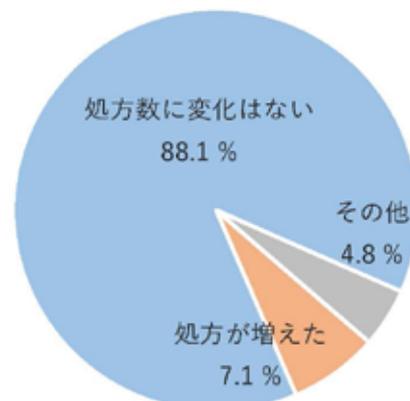
11. 疾患別リハビリテーション料の見直し

- ・呼吸器リハビリテーション料は改定で対象患者が追加されたが、対象患者に対しての「処方が増えた」と回答した施設は6.4%であった。
- ・心大血管リハビリテーション料は改定で対象疾患が追加されたが、対象疾患に対しての「処方が増えた」と回答した施設は7.1%であった。

-1. 呼吸器リハビリテーション料
対象患者の追加による処方数の変化
(対象：施設基準取得と回答した78施設)



-2. 心大血管疾患リハビリテーション料
対象疾患の追加による処方数の変化
(対象：施設基準取得と回答した 42施設)



12. 療養病棟入院基本料の見直し（対象：23施設）

- ・医療区分、ADL区分ともに1である入院料27(従前の入院料I)について、1日につき2単位を超える疾患別リハビリテーション料を包括範囲に含む改定があった。「影響なし」と回答した施設は65.2%であった。

今年度診療報酬改定による影響 影響なし 15施設 (65.2%)

記述回答（8件）の要約・頻出ワード（記述回答を集計）

- ・入院区分確認の作業負担の増加
- ・算定単位数の減少

13. リハ科の収益以外で施設の収益・施設基準にかかわる加算への理学療法士の関わり

・主に病院では、疾患別リハビリテーション料などのリハビリテーション科としての収益以外でも、施設基準の要件として専従理学療法士が明記されている、排尿自立支援加算や呼吸ケアチーム加算、その他のチーム活動や委員会などがあり、どのように理学療法士が関わっているのかを調査した。
 ・回答数上位順に結果をしたが、多くの施設内活動に関わっていることがわかった。
 ・業務調整については「業務内で調整」と回答した施設が7割弱だが、2割は「残業として対応」と回答している。今後も他職種連携やチーム医療推進のために理学療法士がどのような関わりを持っているのか継続して調査していく。

－1. 理学療法士が関わっているもの（複数回答、施設数割合）

施設基準に関わるもの（専任の常勤理学療法士）

排尿ケアチーム（排尿自立支援加算）	24.2%
呼吸ケアチーム（呼吸ケアチーム加算）	19.5%

その他の施設基準に関わるもの（施設内の委員会やチーム活動）

医療安全（医療安全対策加算など）	55.6%	二次性骨折予防継続管理料	22.7%
褥瘡対策チーム（褥瘡ハイリスク患者ケア加算）	44.5%	緩和ケアチーム（緩和ケア診療加算）	12.5%
栄養サポートチーム（栄養サポートチーム加算）	39.8%	透析時運動指導等加算	9.4%
感染制御チーム（感染対策向上加算など）	39.8%	慢性腎臓病透析予防診療チーム （慢性腎臓病透析予防指導管理料）	0.9%
身体拘束最小化チーム（入院料通則）	34.4%	該当する関わりはない	18.6%
認知症ケアチーム（認知症ケア加算）	25.8%		

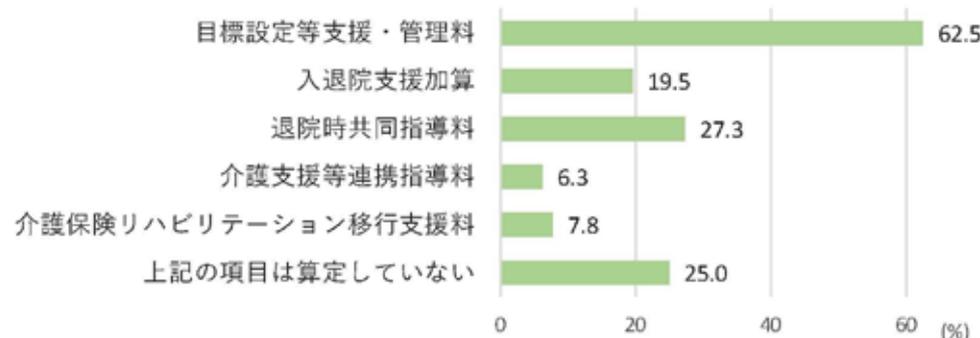
－2. チームや委員会への関わり(参加)はどのように業務調整を実施しているか（施設数割合）

業務内で調整（参加時間分は単位ノルマなどを減らして対応）	68.8%
残業として対応	19.5%
管理者のみが関わっている	14.8%
その他	0.8%

14. 医療と介護の連携

・算定状況については、例年と大きな変化はなかった。
 ・リハビリテーション実施計画書の提供が義務化されたが、回答施設の半数は「書類提供が十分できている」との回答であった一方、「書類業務が増えた」48.4%、「患者の同意が取れないため提供困難」23.4%など影響や問題点の回答が上位であり、記述回答いただいた意見も、書類業務増加に関することや、残業増加の意見が多かった。
 ・今後は介護報酬部とも連携し、提供先施設に対しても影響などの調査を検討したい。

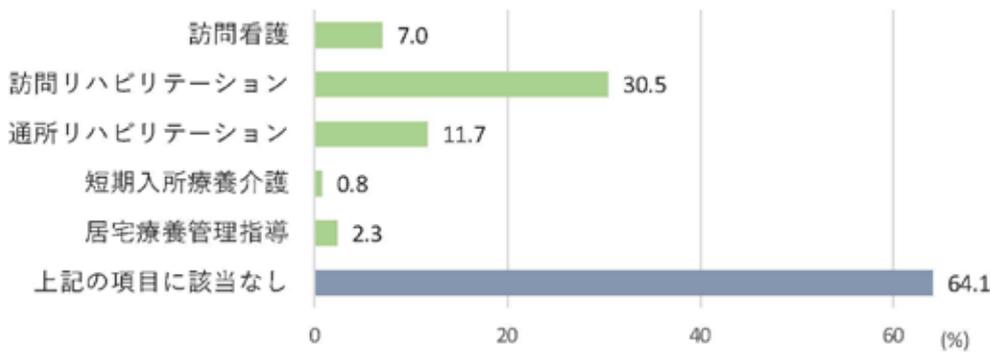
－1. 算定状況（複数回答、施設数割合）



－2a. 一部の移行先に対するリハビリテーション実施計画書等の提供が義務化提供に関する問題点や業務への影響（複数回答、施設数割合）

対象患者へ書類提供が十分できている	52.3%
書類業務が増えた	48.4%
患者に同意がとれないので提供が困難	23.4%
介護保険の通所リハビリテーション事業所等によるサービス利用の確認が取れずリハ実施計画書等の提供ができない	18%
移行先の事業所や保険医療機関等から書類等の提供に関して問い合わせが増えた	10.2%
報告書と兼用できるようリハ実施計画書等の書式を見直した	9.4%
リハビリテーション実施計画書以外の文書（R6.3.28疑義解釈 問196に該当）を作成し提供している	7%
その他	6.3%

－3. みなし指定サービス（複数回答、施設数割合）



本調査にご回答いただいた施設にはこの場を借りて感謝申し上げます。
 来年度も継続して診療報酬に関する調査を実施予定です。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。
 医療報酬部では、講習会の開催、診療報酬に関する相談・助言事業を行なっております。
 詳細は東京都理学療法士協会ホームページをご覧ください。

第 21 回災害時安否確認システム予行演習のお知らせ

公益社団法人東京都理学療法士協会
災害対策委員会

東京都理学療法士協会では、東京都作業療法士会および東京都言語聴覚士会と合同で、毎年 2 回実施している災害時安否確認システムの予行演習を、下記の内容で実施いたします。皆さまの積極的なご参加をお願い申し上げます。

【災害時安否確認システム】

概 要： Google フォームを使用した安否確認情報登録

目 的： 大規模災害等発災時における安否状況や各地域の被災状況を確認し災害支援に役立てる



【災害時安否確認システム予行演習】

日 時： 2025 年 3 月 11 日（火）～2025 年 3 月 18 日（火）

対 象： 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 ※会員・非会員は問いません

方 法： 下記の URL 又は QR コードから Google フォームにアクセスし情報を登録して下さい

備 考： 東京都理学療法士協会・東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会との合同開催となります
施設単位ではなく個人単位での参加（登録）となりますのでご注意ください

<URL>

<https://forms.gle/6Yk7Vp23WeuRuFwx6>

<QR コード>



【お問合せ先】

医療法人財団健貢会総合東京病院 診療技術部 リハビリテーション科 松本浩一（理学療法士）

TEL: 03-3387-5119（直通） / E-mail: tokyopt.saigai@gmail.com

【災害時安否確認システム 予行演習参加方法】

★所要時間最短 1分未満

- ① URL 又は QR コードから Google フォームにアクセスする ※画像は過去使用したフォームです
- ② 氏名や被害状況などの必要情報を記載・選択する

安否・被害状況入力フォーム
 第17回災害時安否確認システム予行演習
 2023年3月11日(土)～2023年3月18日(土)

tokyopi.kai@gmail.com (共有なし)
 アカウントを切り替える

*必須

氏名*
 例: 安西 太郎
 回答を入力

ふりがな*
 例: あんざい たろう
 回答を入力

職種*

- PT (東京都理学療法士協会 会員)
- PT (上記以外)
- OT (東京都作業療法士会 会員)
- OT (上記以外)
- ST (東京都言語聴覚士会 会員)
- ST (上記以外)

- ③ 送信（登録）して終了です

所属施設所在地 (区市町村・50音順) *
 自宅会員の方は自宅所在地を選択してください

選択

安否状況*
 ご自身の安否状況を回答してください

- 無事
- 何らかの被害を受けた

前問で「何らかの被害を受けた」を選択された方は状況を記載してください

回答を入力

その他、家族・同僚等の安否状況
 差し支えない範囲で記載してください

回答を入力

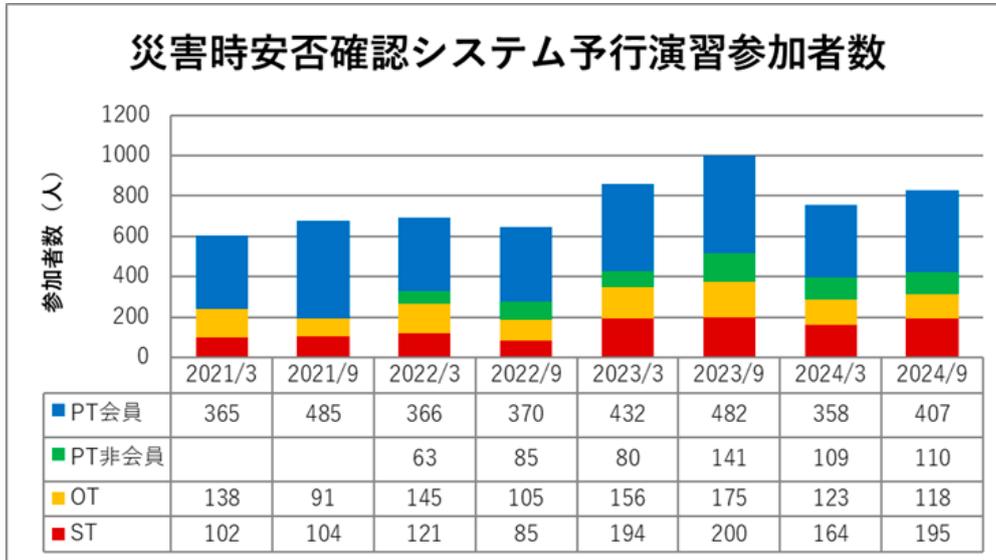
その他、周囲の被害状況など
 例: 所属施設が半壊、〇〇が不足している など

回答を入力

送信 フォームをクリア

補足資料：災害時安否確認システム予行演習結果

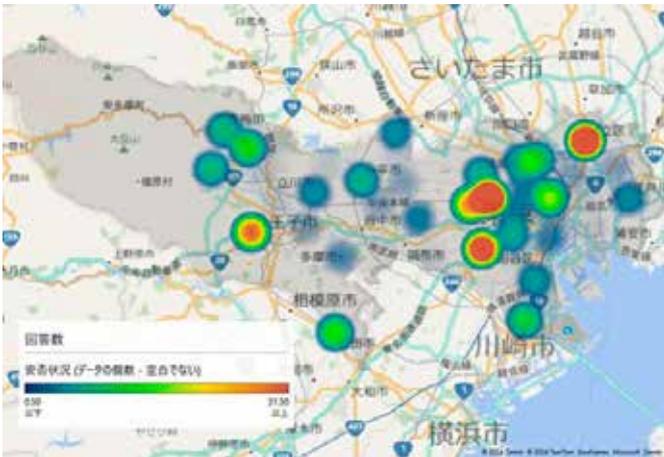
●参加者数



●区市町村別参加者数（概況） ※青色：参加者数少ない⇔赤色：参加者数多い

○第20回：R6.9.1～9.8

○第19回：R6.3.11～3.18



○第18回：R5.9.1～9.8

○第17回：R5.3.11～3.18



補足資料：2023年に発生した主な自然災害

2023年に発生した主な自然災害

総務省消防庁「令和5年災害情報一覧」より

※2023年11月30日段階、事故ならびにミサイル情報を除く

台風・大雨・大雪による全国的な被害

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1月20日～27日
大雪 | 2月10日～13日
大雪 |
| 6月2日～26日
大雨/台風2号 | 6月29日～7月28日
大雨 |
| 7月15日～28日
大雨 | 8月3日～10日
大雨 |
| 8月6日～18日
台風6号 | 8月12日～25日
台風7号 |
| 9月8日～15日
台風13号 | |

6月11日/北海道
地震(震度5弱)

2月25日/北海道
地震(震度5弱)

5月5日/石川
地震(震度6強)

5月26日/千葉・茨城
地震(震度5弱)

5月11日/千葉
地震(震度5強)

5月22日/東京(利島村)
地震(震度5弱)

10月5日/東京(鳥島近海)
地震(M6.5)

10月9日/東京(鳥島近海)
地震にともなう津波

2月8日~/鹿児島(桜島)
噴火(噴火警戒レベル3)

6月27日/鹿児島(口永良部島)
火山活動(噴火警戒レベル3)

3月5日～6月9日/鹿児島(隼訪之瀬島)
火山活動(噴火警戒レベル3)

5月13日/鹿児島(十島村[中之島])
地震(震度5弱)

- 人的被害・住家被害両方が発生
- 人的被害・住家被害いずれか発生
- 人的被害・住家被害発生なし

(出典)「2023年に発生した主な自然災害をまとめたインフォグラフィックを公開 加入している火災保険の補償内容を確認し自然災害への対策を | ソニー損害保険株式会社のプレスリリース (prtimes.jp)」

【所感】

前々回は参加者数が大きく減少しましたが、前回はわずかながら増加がみられました。また、参加地域の偏りも改善傾向にあり、参加地域の広がりが認められます。今後発生しうる災害に対し、発生時の情報共有・把握のための重要なツールの1つであると考えています。皆さまの積極的なご参加をお願い申し上げます。

★目標：会員参加者数 1,000 名以上★

障害福祉部 装具相談会報告

【日時】 2025年2月3日(月) 14:00～15:15

【開催場所】 社会福祉法人多摩大和会 やまと苑

【相談者】 3名

【内 容】

障害福祉部では、特別養護老人ホームへ訪問するかたちで装具相談会を開催いたしました。今回の相談会では、やまと苑の理学療法士である池原様、吉田ピー・オー・サプライの義肢装具士である吉田様にご協力いただき、3名の方の相談対応をいたしました。もともとの装具が合わなくなってしまったために使用しなくなってしまった1名の方に対しては、その場で簡単な調整をさせていただき今後の作製し直しの方法をご説明させていただきました。また、装具の適応がありそうな2名の方に対しては、実際の装具で評価をさせていただき、その場で歩きやすさや安定性の変化を実感していただき、今後の購入の流れなどをご説明させていただきました。

今回の相談会を通して、装具が必要であるにも関わらず作製後のフォローがされにくい状況であったり、適応の評価がされにくい状況であったりすることを実感いたしました。



報告者：工藤 弘之（大久野病院）

倫理委員会からのお知らせ

倫理委員会では、理学療法士の倫理厳守の意識を高めることを目的として「倫理規定」等に関する啓発活動を実施しています。

新年度におきましては、職場内にて新入職者に対して研修などを行う施設もあるかと思えます。是非とも職場内においても倫理について共有する機会をつくって頂けたらと思えます。

○公益社団法人 日本理学療法士協会から倫理綱領が定められていますので、職場内でも共有して頂きたいと思えます。(以下、日本理学療法士協会 HP より)

倫理綱領

公益社団法人 日本理学療法士協会

序文

公益社団法人 日本理学療法士協会（以下、「本会」という。）は、理学療法士の社会的な信頼の確立と、職能団体としての本会が公益に資することを目的として、「倫理綱領」を定める。

本会ならびに理学療法士が、高い倫理感を基盤として相互の役割を果たす中で、理学療法の発展と国際社会への貢献のために、より良い社会づくりに貢献することを願うものである。

一、理学療法士は、全ての人の尊厳と権利を尊重する。

一、理学療法士は、国籍、人種、民族、宗教、文化、思想、信条、家柄、社会的地位、年齢、性別などにかかわらず、全ての人に平等に接する。

一、理学療法士は、対象者に接する際には誠意と謙虚さを備え、責任をもって最善を尽くす。

一、理学療法士は、業務上知り得た個人情報についての秘密を遵守し、情報の発信や公開には細心の注意を払う。

一、理学療法士は、専門職として生涯にわたり研鑽を重ね、関係職種とも連携して質の高い理学療法を提供する。

一、理学療法士は、後進の育成、理学療法の発展ならびに普及・啓発に寄与する。

一、理学療法士は、不当な要求・収受は行わない。

一、理学療法士は、国際社会の保健・医療・福祉の向上のために、自己の知識・技術・経験を可能な限り提供する。

一、理学療法士は、国の動向や国際情勢を鑑み、関係機関とも連携して理学療法の適用に努める。

○東京都理学療法士協会 倫理規定はこちら ⇒ <https://x.gd/DiA7L>

○日本理学療法士協会 倫理啓発・ポスターはこちら

⇒ <https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/pt/ethics/>

○医道審議会（理学療法士作業療法士倫理部会）はこちら

⇒ https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-idou_127801.html

報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

執筆投稿規定

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

- 1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
- 2) キーワード：標題及び要旨から3個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。
- 3) 著者名、所属名
- 4) 要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて400字程度で記載する。
- 5) 本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が3名以上の場合、最初の2名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

<表記例>

・藤田信子, 柘田康彦・他: 椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動一筋電図学的分析. 理学療法学, 17:27-30, 1990.

・Sepic, S.B, Murray, M.P, et al.: Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women. Am. J. Phys. Med, 65:75-84, 1986.

・真島英信, 猪飼道夫: 生体の運動機能とその制御. 杏林書院, 東京, 1972, pp185-193.

・Junda, V.: Muscle Function Testing Butterworths, London, 1983, pp224-227.

6) 図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として400字詰め原稿用紙20枚・8000字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁、著者頁

論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード(3個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先(住所・電話番号・Emailアドレス)を記載する。表紙頁、著者頁の後に要旨・本文・図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

原稿にはページ番号(最下部中央)と本文右(または左)に5行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1) 原稿送付先

原則として投稿原稿一式を1つのファイルにまとめ、

電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせること。

2) 原稿送付先および連絡先

〒189-0024 東京都小金井市中町2-22-32

社会医学技術学院 理学療法学科

(担当者)中山雅和

TEL: 042-384-1030

FAX: 042-384-8508

E-mail: pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

(平成31年1月31日 改定)

編集後記

東京都理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか?さて本号(233号)のページ構成は全65ページとなり、過去最大のページ数となりました。ひとえに本会の地域活性局の元での各ブロック部、各支部またはスポーツ局からの多くの事業をご紹介いただいた成果であると思います。一方で1号あたりの分量がかな多くなっているのも事実でございます。そのため今後は年間の発行回数を増やす等の検討する時期となって来ていると感じています。しかしながら本会の活動の幅広さを誌面より感じていただければ幸いです。ぜひご一読いただき様々な活動に触れていただきたいと思います。2月も下旬を迎え、昨日理学療法士国家試験も開催されました。また第44回東京都理学療法学会の準備も着々と進行しているようです。大会ホームページからの追加情報を楽しみにしたいと思います。(M.I)

X



https://x.com/TPTA_PR2023

Facebook



<https://x.gd/9Ossi>

Instagram



https://www.instagram.com/tpta_pr2023/

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

11,164名(令和7年2月25日現在)

(事務局) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-58-7 ヴェラハイツ代々木201

Tel: 03-3370-9035 FAX: 03-3370-9036